

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2018年8月15日提出
【発行者名】	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柏木 茂介
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号
【事務連絡者氏名】	楠本 靖三
【電話番号】	03-5293-1500
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	5,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【証券情報】

### （１）【ファンドの名称】

シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）（以下「ファンド」といいます。）

### （２）【内国投資信託受益証券の形態等】

- ・追加型証券投資信託受益権です。（以下「受益権」といいます。）
- ・信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。  
ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社債、株式等の振替に関する法律第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情などがある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

### （３）【発行（売出）価額の総額】

5,000億円を上限とします。

### （４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

- ・基準価額につきましては、販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

### （５）【申込手数料】

販売会社が定めるものとします。

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.24%（税抜3.00%）を上限として販売会社が独自に定める申込手数料率を乗じて得た額とします。

申込手数料率につきましては、販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

### （６）【申込単位】

販売会社が定める単位とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

### （７）【申込期間】

2018年8月16日から2019年2月15日までとします。<sup>\*</sup>

- ・上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。<sup>\*</sup>

<sup>\*</sup> 信託終了（繰上償還）となった場合、申込期間は2018年11月13日までとし、以後、申込期間の更新は行われません。

### （８）【申込取扱場所】

販売会社につきましては、委託会社の照会先にお問い合わせください。

< 委託会社の照会先 >

シュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社

電話番号：03-5293-1323

受付時間：午前9時～午後5時まで(土、日、祝日は除きます)

ホームページアドレス：<http://www.schroders.co.jp/>

( 9 ) 【払込期日】

- ・取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する期日までに販売会社に支払うものとします。
- ・申込期間における各取得申込受付日の発行価額の総額(設定総額)は、販売会社によって、追加設定が行なわれる日に委託会社の指定する口座を經由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

( 10 ) 【払込取扱場所】

申込金額は、販売会社にお支払いいただきます。

( 11 ) 【振替機関に関する事項】

振替機関は、株式会社証券保管振替機構とします。

( 12 ) 【その他】

日本以外の地域における発行

該当事項はありません。

< 信託終了(繰上償還) 予定のお知らせ >

ファンドの受益権口数が信託約款に規定する受益権口数を下回っているため、信託約款の規定に基づき、2018年11月15日をもって信託終了(繰上償還)させていただくための手続を下記の日程で行います。

信託終了(繰上償還)の手続きならびに日程

新聞公告(日本経済新聞朝刊)	2018年8月15日
異議申立期間	2018年8月15日から2018年9月18日まで
信託終了(繰上償還)可否決定日	2018年9月19日
買取請求期間	2018年9月21日から2018年10月10日まで
信託終了(繰上償還) 予定日	2018年11月15日

公告日(2018年8月15日)現在のファンドの受益者で、繰上償還に異議のある受益者は、2018年8月15日から2018年9月18日までの間に、自己の保有する口数についてシュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社に対して書面をもって異議を申し立てることができます。

異議申立てをされた受益者の受益権口数が、2018年8月15日現在におけるファンドの受益権総口数の2分の1を超えない場合は、2018年11月15日をもって信託を終了いたします。

2018年8月13日までの受付となる申込により取得された受益権を対象としております。

2018年8月14日以降の受付となる申込により取得された受益権、および2018年8月13日以前の受付となる申込により換金された受益権は今回の手続きの対象となりません。

異議申立結果のお知らせ

2018年9月19日にシュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社のホームページ

(<http://www.schroders.co.jp/>)に「信託終了(繰上償還) 決定のお知らせ」を掲載いたします。

ご購入に際しては、上記の内容を十分ご認識のうえ、ご判断くださりますようお願い申し上げます。

## 第二部【ファンド情報】

## 第1【ファンドの状況】

## 1【ファンドの性格】

## (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

主として新興国の現地通貨建て債券に投資し、長期的な信託財産の成長を目的として運用を行います。

ファンドの基本的性格

## 1) 商品分類

単位型投信・ 追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式 債券
	海外	不動産投信
追加型投信	内外	その他資産 ( ) 資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## 2) 属性区分

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
	年2回	日本		
	年4回	北米		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年6回 (隔月)	欧州	ファミリーファンド	あり ( )
	年12回 (毎月)	アジア		
		オセアニア		
不動産投信	日々	中南米		
その他資産 (投資信託証券 (債券 公債))	その他 ( )	アフリカ	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型		中近東 (中東)		
		エマージング		

(注1) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

(注2) 属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

当ファンドは、ファミリーファンドです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産(投資信託証券(債券 公債))）と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産

（債券）とが異なります。

#### <商品分類の定義>

##### 1. 単位型投信・追加型投信の区分

- (1) 単位型投信：当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信：一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

##### 2. 投資対象地域による区分

- (1) 国内：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外：目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

##### 3. 投資対象資産による区分

- (1) 株式：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。
- (5) 資産複合：目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

##### 4. 独立した区分

- (1) MMF(マネー・マネージメント・ファンド)：「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2) MRF(マネー・リザーブ・ファンド)：「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- (3) ETF：投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

#### <補足として使用する商品分類>

- (1) インデックス型：目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型：目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

#### <属性区分の定義>

##### 1. 投資対象資産による属性区分

###### (1) 株式

一般：次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。

大型株：目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。

中小型株：目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

###### (2) 債券

一般：次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。

公債：目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。

社債：目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。

その他債券：目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。

格付等クレジットによる属性：目論見書又は投資信託約款において、上記 から の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記 から に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

### (3)不動産投信

これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

### (4)その他資産

組入れている資産を記載するものとする。

### (5)資産複合

以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

資産配分固定型：目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

資産配分変更型：目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

## 2. 決算頻度による属性区分

年1回：目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。

年2回：目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。

年4回：目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。

年6回(隔月)：目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。

年12回(毎月)：目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。

日々：目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。

その他：上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

## 3. 投資対象地域による属性区分(重複使用可能)

グローバル：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

日本：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

北米：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

欧州：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

アジア：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

オセアニア：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

中南米：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

アフリカ：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

中近東(中東)：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

エマージング：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

## 4. 投資形態による属性区分

ファミリーファンド：目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。

ファンド・オブ・ファンズ：「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

## 5. 為替ヘッジによる属性区分

為替ヘッジあり：目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。

為替ヘッジなし：目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

#### 6. インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分

日経225

TOPIX

その他の指数：前記指数にあてはまらない全てのものをいう。

#### 7. 特殊型

ブル・ベア型：目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。

条件付運用型：目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。

ロング・ショート型/絶対収益追求型：目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。

その他型：目論見書又は投資信託約款において、上記 から に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

上記は、一般社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。また、商品分類および属性区分の定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。なお、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) でもご覧頂けます。

## ファンドの特色

**① JP モルガン・ガバメント・ボンド指数エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの構成国の現地通貨建て債券を実質的な主要投資対象とします。**

※ファンドは、主としてシュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド（以下「マザーファンド」という場合があります。）を通じて投資を行います。

※投資対象はこれらの国に限定されないほか、運用者の判断で見直される場合があります。また、為替運用を行うことがあります。

**JP モルガン・ガバメント・ボンド指数エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの構成国**



JP モルガンのデータに基づきシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社が作成  
15カ国 2018年5月末現在

※当指数は1カ国の組入上限を10%としています。

※構成国は変更されることがあります。

**② 実質外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いません。ただし、現地通貨建て資産については、米ドルに対して為替ヘッジを行うことがあります。**

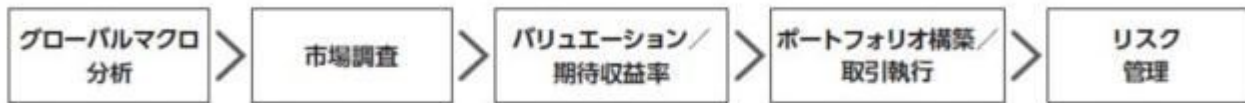
**③ マザーファンドの運用にあたっては、シュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インクに運用の指図に関する権限を委託します。**

資金動向、市場動向、信託財産の規模等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



## 運用プロセス

- マザーファンドの運用を行うシュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インクの運用担当チームは、経験豊富なプロフェッショナルで構成され、グローバルに展開するシュローダー・グループのリサーチ体制を活用し運用にあたります。
- 全プロセスを通して、アイデアの共有を目的とした定期的なミーティングやスタッフ相互のコミュニケーションが図られており、これによって一つのプロセスとして統合されています。

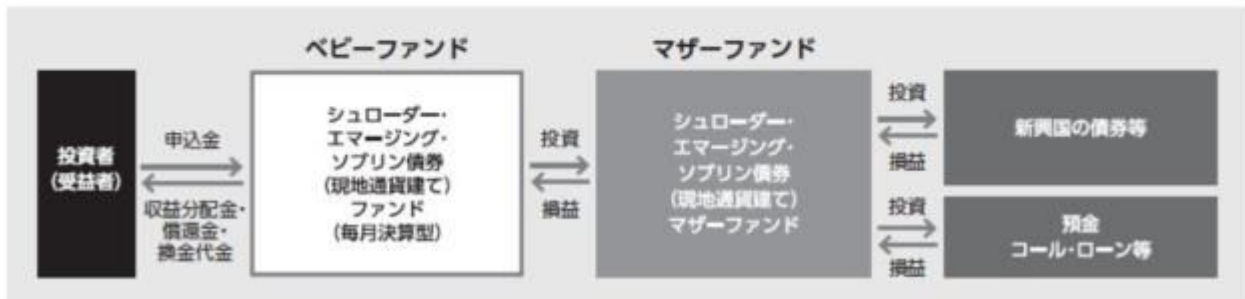


※上記はマザーファンドの運用委託先である、シュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インクの運用体制です。

※上記の運用プロセスは、予告なく変更することがあります。

## ファンドの仕組み

- ファンドは、投資者からの資金をまとめてベビーファンドとし、ベビーファンドの資金をマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行うファミリーファンド方式で運用を行います。ただし、市況動向等によっては、債券等に直接投資することがあります。



※本書において「直接投資」とは、ベビーファンドがマザーファンドを介さずに行う投資をいいます。

また「実質的な主要投資対象」および「実質投資割合」とは、それぞれ、マザーファンドが投資する最終的な投資対象資産 (債券等) およびその投資割合をいいます。

**主な投資制限**

- 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
- デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

**分配方針**

原則毎月15日の決算時(休業日の場合は翌営業日)に、収益分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益等の全額とします。
- 毎月の決算時における収益分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、安定的に分配することを基本とします。
- 毎年2月、5月、8月および11月の決算時には、基準価額水準、市況動向等を勘案し、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配することがあります。  
なお、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。



※上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市場動向、信託財産の規模等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

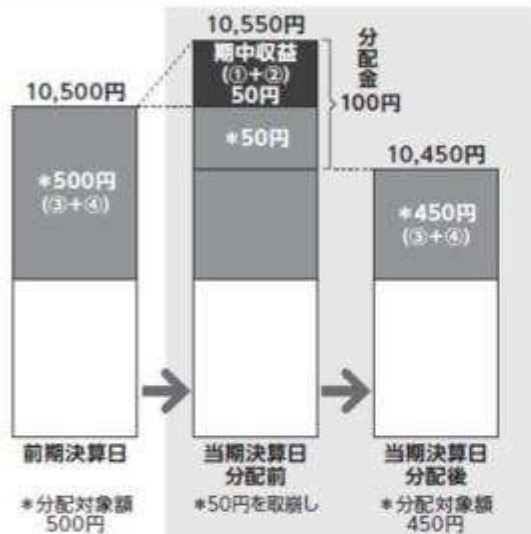
投資信託で分配金が支払われるイメージ



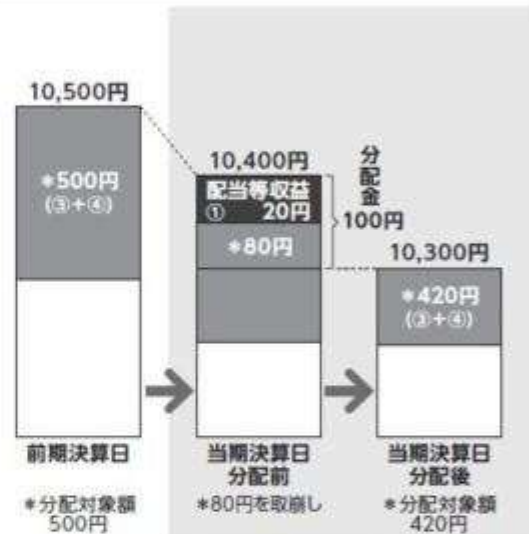
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金：期ごとに分配可能額を計算し、分配可能額から実際に分配した額を引いた額はそのまま信託財産に組み入れられます。この額のことを分配準備積立金といいます。

収益調整金：新規の投資者がファンドを購入したことによって、既存の投資者が受け取れる分配金の額が薄まることのないよう、投資信託財産を計理処理する際に使う特有の勘定科目のことです。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

### 信託金限度額

- ・ 5,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・ 委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

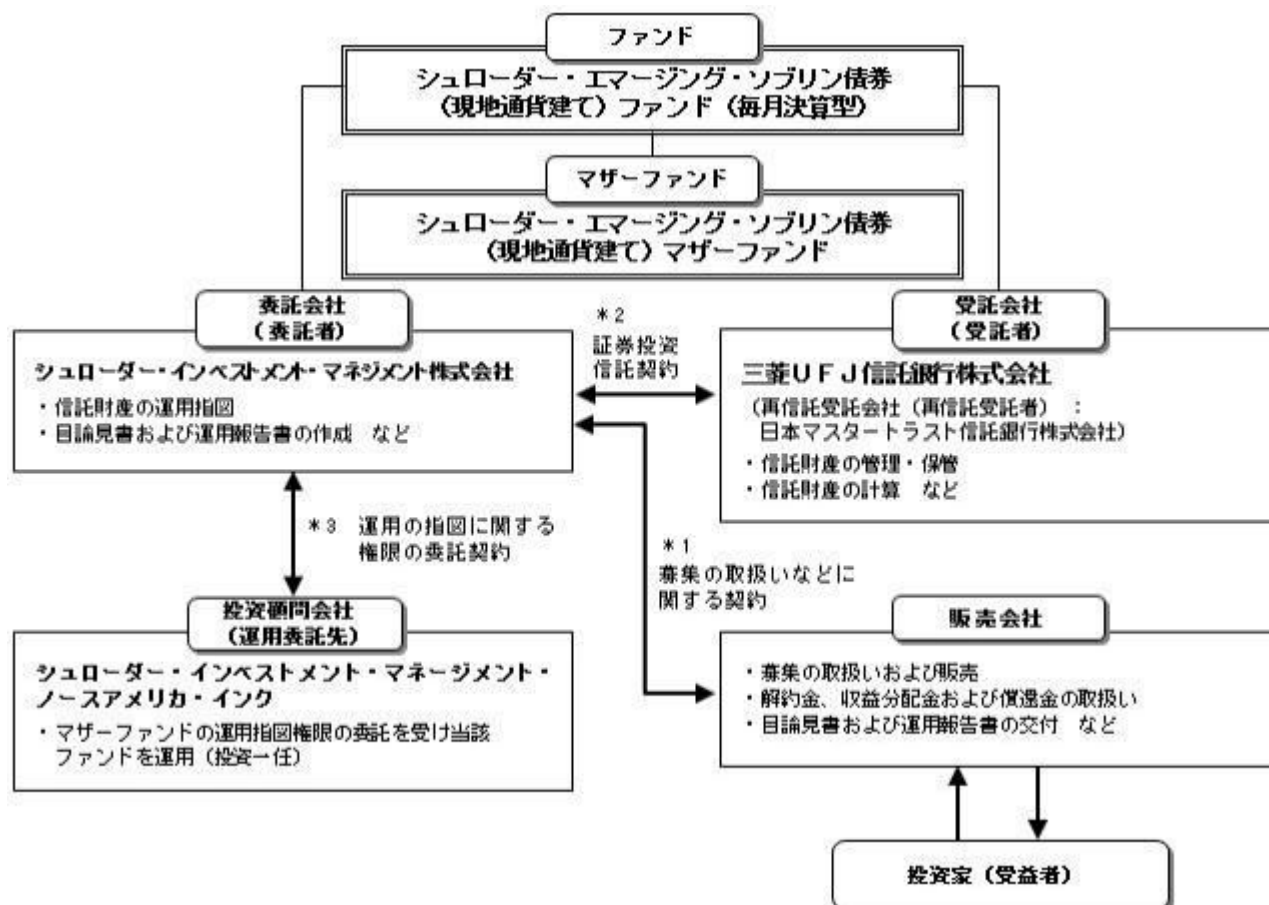
## (2) 【ファンドの沿革】

2007年 4月27日

・信託契約締結、設定、運用開始

### （３）【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



- \*1 投資信託を販売するルールを委託会社と販売会社の間で規定したものの。販売会社が行なう募集の取扱い、収益分配金・償還金の支払い、解約請求の受付の業務範囲の取決めの内容などが含まれています。
- \*2 投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社の間で規定したものの。運用の基本方針、投資対象、投資制限、信託報酬、受益者の権利、募集方法の取決めの内容などが含まれています。
- \*3 投資顧問会社に運用の指図に関する権限を委託するにあたり、そのルールを委託会社と投資顧問会社との間で規定したものの。委託する業務内容、報酬の取決めの内容などが含まれています。

委託会社の概況（2018年5月末現在）

#### 1) 資本金

490百万円

#### 2) 沿革

1985年12月10日 : 株式会社シュローダー・インベストメント・マネージメント設立

1991年12月20日 : シュローダー投信株式会社設立

1997年 4月 1日 : シュローダー投信株式会社と株式会社シュローダー・インベストメント・マネージメントが合併し、シュローダー投信投資顧問株式会社設立

2007年 4月 3日 : シュローダー証券投信投資顧問株式会社に商号を変更

2012年 6月29日 : シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）に商号を変更

#### 3) 大株主の状況

名 称	住 所	所有株数	所有比率
シュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッド	英国 EC2V 7QA ロンドン グreshamストリート31	9,800株	100%

## 2【投資方針】

### （1）【投資方針】

主として、マザーファンド受益証券に投資し、長期的な信託財産の成長を目的に運用を行うことを基本とします。

投資にあたっては、JP モルガン・ガバメント・ボンド指数エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの構成国の現地通貨建て債券を実質的な主要投資対象とします。ただし、投資対象はこれらの国に限定されないほか、運用者の判断で見直される場合があります。

実質外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。

債券等の実質組入比率については、原則としてフルインベストメントとします。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

### （2）【投資対象】

シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要対象とします。なお、市況動向等によっては、公社債等に直接投資することもあります。

投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1) 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ) 有価証券

ロ) デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、ファンドの約款第23条、第24条、第25条および第25条の2に定めるものに限ります。）

ハ) 約束手形

ニ) 金銭債権

2) 次に掲げる特定資産以外の資産

イ) 為替手形

有価証券の指図範囲等

委託者は、信託金を、主としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託「シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド」の受益証券ならびに次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1) 株券または新株引受権証券

2) 国債証券

3) 地方債証券

4) 特別の法律により法人の発行する債券

5) 社債券（新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）

6) 特定目的会社に係わる特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）

7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）

8) 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）

9) 特定目的会社に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）

10) コマーシャル・ペーパー

11) 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券



- 12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1) から11) までの証券または証書の性質を有するもの
- 13) 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- 14) 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- 15) 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- 16) オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。）
- 17) 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 18) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 19) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- 20) 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
- 21) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

22) 外国の者に対する権利で21) の有価証券の性質を有するもの

なお、1) の証券または証書、12) ならびに17) の証券または証書のうち1) の証券および証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2) から6) までの証券および12) ならびに17) の証券または証書のうち2) から6) の証券の性質を有するもの、および14) の証券のうち投資法人債券を以下「公社債」といい、13) の証券および14) の証券（ただし、投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。

#### 金融商品の指図範囲

委託者は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- 1) 預金
- 2) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3) コール・ローン
- 4) 手形割引市場において売買される手形
- 5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6) 外国の者に対する権利で5) の権利の性質を有するもの

この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、上記に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

#### その他の投資対象と指図範囲

信用取引の指図、先物取引等の運用指図、スワップ取引の運用指図、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の運用指図、クレジットデリバティブ取引の運用指図、有価証券の貸付けの指図、公社債の空売りの指図、公社債の借入れの指図、外国為替予約取引の指図、有価証券売却等の指図、資金の借入、担保権の設定を行うことができます。

#### 投資対象とするマザーファンドの概要

<シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド>

運用の基本方針	
基本方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主な投資対象	JP モルガン・ガバメント・ボンド指数エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの構成国の現地通貨建て債券を主要投資対象とします。

投資態度	<p>主として新興国債券市場における現地通貨建ての国債等に投資を行い、長期的な信託財産の成長を目的に運用を行うことを基本とします。</p> <p>投資にあたっては、JP モルガン・ガバメント・ボンド指数エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの構成国の現地通貨建て債券を主要投資対象とします。ただし、投資対象はこれらの国に限定されないほか、運用者の判断で見直される場合があります。また、為替運用を行うことがあります。</p> <p>外貨建て資産については、対円での為替ヘッジは行いません。ただし、現地通貨建て資産については、米ドルに対して為替ヘッジを行うことがあります。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>運用にあたっては、シュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インクに運用の指図に関する権限を委託します。</p>
主な投資制限	<p>外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p> <p>デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。</p> <p>外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。</p> <p>株式、新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の株式、新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p>
収益分配	収益分配は行いません。
<b>ファンドに係る費用</b>	
信託報酬	ありません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用など	<p>組入る有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税など。</p> <p>上記費用に付随する消費税等相当額を含みます。</p>
<b>その他</b>	
委託会社	シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社
投資顧問会社 (運用委託先)	シュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インク
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

### (3) 【運用体制】

#### 運用体制

シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社（外国債券運用担当）が、ファンドおよびマザーファンドの運用を行います。

なお、ファンドの主要投資対象であるシュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンドの運用にあたっては、シュローダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インクに運用の指図に関する権限を委託します。

運用にあたっては、シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社が「投資運用業務に係る業務運営規程」（社内規則）に則り、以下の体制（委託会社と委託会社のグループ全体での運用体制を示しています。）で臨みます。

[当社]	[シュローダー・グループ各海外拠点]
国内株式運用*1	<b>株式運用</b> グローバル株式 エマージング株式 アジア(除く日本)株式 欧州株式 米国株式 計量株式運用 他 <b>企業リサーチ</b>
国内債券運用*2	<b>債券運用</b> グローバル債券 米国債券 欧州債券 アジア債券 新興国債券ベンチマーク型 転換社債 保険リンク証券 他 <b>経済分析</b> <b>クレジットリサーチ</b>
外国株式運用*3	マルチアセット運用
外国債券運用*4	ポートフォリオ・ソリューション
マルチアセット運用*5	<b>オルタナティブ運用</b> 新興国債券絶対収益型 コモディティ 不動産 他
オルタナティブ運用*6	

- \*1 国内株式運用における、個別銘柄分析、ポートフォリオの構築およびリスク管理、国内投資信託の運用指図
- \*2 国内債券運用に関する指図の権限の委託（委託先は、マニユライフ・アセット・マネジメント株式会社）、国内投資信託の運用指図
- \*3 外国株式運用に関する指図の権限の委託（委託先は、シュローダー・グループ内の各関連会社）、国内投資信託の運用指図
- \*4 外国債券運用に関する指図の権限の委託（委託先は、シュローダー・グループ内の各関連会社）、国内投資信託の運用指図
- \*5 マルチアセット運用に関する指図の権限の委託（委託先は、シュローダー・グループ内の各関連会社）、国内投資信託の運用指図
- \*6 オルタナティブ運用に関する指図の権限の委託（委託先は、シュローダー・グループ内の各関連会社）、国内投資信託の運用指図

#### 内部管理体制

運用部門、トレーディング部門、管理部門はそれぞれ完全に独立しており、部門間で十分に牽制機能が働くような組織構成となっています。これらの牽制機能が十分に機能しているかどうかを監理するため、運用プロセスから独立した部門がモニタリングを実施し業務手続の遵守状況やリスク管理状況を定期的にチェックしています。エラーや違反が行われた場合には、改善の提言およびその実施状況の確認を行います。

約定から決済まで一貫して自動処理を行う売買発注システムの運営にあたっては、個々のスタッフに付与されている権限は厳格に分離されており、当事者以外が他の権限によりシステムにアクセスすることはできないようになっています。

投資ガイドラインおよび社内ルール遵守状況については、当該売買発注システムのコンプライアンス機能により、自動的にチェックされています。個別の取引に関してはその都度、残高・保有に関しては日次で自動的にコンプライアンスチェックが行われます。遵守状況は運用プロセスから独立した部門に



よって日々モニタリングされ、是正が必要と認められた場合には、運用部や口座担当者に必要な措置を講じるよう求めます。

受託銀行に関する管理の体制

信託財産管理に関する、基準価額計算、決算処理などの日常業務を通じて、受託銀行の事務処理能力については、商品対応力、即時対応力、正確性などを含め把握に努めています。問題が発見された場合には、受託銀行と適宜連絡を行い、改善を求めています。受託銀行における内部統制については、各受託銀行より外部監査人による内部統制についての報告書を取得しています。

上記体制は2018年5月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

#### （４）【分配方針】

収益分配方針

毎決算時（毎月15日、ただし決算日が休業日の場合は翌営業日）に原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- 1) 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みません。）等の全額とします。
- 2) 毎月の決算時における分配金額は、1)の範囲内で、委託者が決定するものとし、安定的に分配することを基本とします。なお、分配対象額が少額等の場合には、分配を行わない場合があります。
- 3) 毎年2月、5月、8月および11月の決算時には、基準価額水準、市況動向等を勘案し、2)の分配相当額のほか、1)の範囲内で委託者が決定する額を付加して分配することがあります。
- 4) 留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

収益分配金の支払い

< 分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース） >

原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

< 分配金受取りコース（一般コース） >

毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から収益分配金を支払います。支払いは販売会社において行なわれます。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

#### （５）【投資制限】

約款に定める投資制限

- 1) 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
- 2) 株式、新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- 3) 投資信託証券（マザーファンド受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- 4) 同一銘柄の株式、新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- 5) 投資する株式等の範囲  
委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、運用の基本方針の範囲内で、金融商品取引所に上場（上場予定も含まれます。）されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- 6) 信用取引の指図範囲  
イ) 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとし、  
ロ) イ)の信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとし、

1. 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券
  2. 株式分割により取得する株券
  3. 有償増資により取得する株券
- 7) 先物取引等の運用指図・目的・範囲
- イ) 委託者は、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引、ならびに有価証券先渡取引（金融商品取引法第28条第8項第4号イに掲げるものをいいます。）、有価証券店頭指数等先渡取引（金融商品取引法第28条第8項第4号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券店頭オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第4号ハに掲げるものをいいます。）を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。（以下同じ）
  - ロ) 委託者は、わが国の金融商品取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引および先物オプション取引、ならびにわが国の金融商品取引所および外国の取引所によらないで行う通貨に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
  - ハ) 委託者は、わが国の金融商品取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引、ならびにわが国の金融商品取引所によらないで行う金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所によらないで行うこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。
- 8) スワップ取引の運用指図・目的・範囲
- イ) 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利、または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下、「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
  - ロ) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
  - ハ) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- ニ) 委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- 9) 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の運用指図・目的・範囲
- イ) 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
  - ロ) 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
  - ハ) 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等を基に算出した価額で評価するものとします。
- ニ) 委託者は、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- ホ) 9)において「金利先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日（以下「決済日」といいます。）における決済日から一定の期間を経過した日（以下「満期日」といいます。）までの期間に係る国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率（以下「指標利率」といいます。）の数値を取り決め、その取り決めに係る数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。
- ヘ) 9)において「為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間に係る為替スワップ取引（同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。以下9)におい

て同じ。)のスワップ幅(当該直物外国為替取引に係る外国為替相場と当該先物外国為替取引に係る外国為替相場との差を示す数値をいいます。以下9)において同じ。)を取り決め、その取り決めに係るスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭またはその取り決めに係るスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行なった先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金に係る決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

ト)9)において「直物為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行なった先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金の授受を約する取引その他これに類似する取引をいいます。

#### 10) クレジットデリバティブ取引の運用指図

委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、クレジットデリバティブ取引(金融商品取引法第2条第21項第5号イおよび同条第22項第6号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)を行なうことの指図をすることができます。

#### 11) 有価証券の貸付けの指図および範囲

イ)委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付けの指図をすることができます。

1. 株式の貸付けは貸付時点において貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2. 公社債の貸付けは貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

ロ)イ)に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、すみやかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

ハ)委託者は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

#### 12) 公社債の空売りの指図および範囲

イ)委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算において行う信託財産に属さない公社債を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、公社債(信託財産により借り入れた公社債を含みます。)の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

ロ)イ)の売付けの指図は、当該売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

ハ)信託財産の一部解約等の事由により、ロ)の売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者はすみやかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

#### 13) 公社債の借入れの指図および範囲

イ)委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。

ロ)イ)の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

ハ)信託財産の一部解約等の事由により、ロ)の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者はすみやかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

ニ)イ)の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

#### 14) 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

#### 15) 外国為替予約取引の指図および範囲

イ)委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

ロ)イ)の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額について、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。

ハ)ロ)の限度額を超えることとなった場合には、委託者は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

#### 16) 資金の借入

イ)委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、また、再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）を行うことができるものとします。

ロ)委託者はイ)の規定により借入れた借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

ハ)委託者はイ)に定める借入れの指図および必要な担保の差入れの指図を行うこととします。

二)イ)に定める資金借入れ額は、次にあげる範囲内の額とします。

1. 信託財産で保有する有価証券等の売却代金、解約代金および償還金等により受取りの確定している資金の合計額の範囲内。
2. かつ、信託財産の純資産総額の100分の10を超えない額の範囲内。
3. 再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てのために借入れた場合については、収益分配金のうち再投資に係る額の範囲内。

ホ)一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、解約代金の支払いのために行う信託財産の売却等により受取りの確定している当該資金の受入日までとします。

ヘ)収益分配金の再投資に係る借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとします。

ト)借入金の利息は信託財産中より支弁します。

17) デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

18) デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。

#### 法令による投資制限

- 1) 同一法人の発行する株式の投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律）

同一法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行なう投資信託全体で、当該株式の議決権の過半数を保有することとなる取引は行ないません。

- 2) デリバティブ取引等の投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令）

運用財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該運用財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを内容とした運用を行ないません。

### 3 【投資リスク】

#### (1) ファンドのリスク

- ・ファンドは組入る有価証券等の価格下落、発行体の倒産および財務状況の悪化、為替変動等の影響により、ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドは預貯金と異なります。ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。
- ・分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われるとその金額相当分、基準価額は下がります。また、必ず支払われるものではなく、金額も確定しているものではありません。

なお、以下に記載するリスクは当ファンドに関するすべてのリスクについて必ずしも完全に網羅したものと

ではなく、それ以外のリスクも存在する場合があることにつきご留意ください。

## 組入債券の価格変動リスク

### 1) 金利変動リスク

ファンドおよびマザーファンドが投資を行う債券の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します（値動きの幅は、残存期間、発行体、債券の種類等によって異なります。）。組入債券の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割り込むこともあります。

### 2) 信用リスク

ファンドおよびマザーファンドが投資を行う債券の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に発行体が財政難、経営不安等により、利息および償還金をあらかじめ決定された条件で支払うことができなくなった場合（債務不履行）、またはできなくなることが予想される場合には、大きく下落します（利息および償還金が支払われないこともあります。）。組入債券の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割り込むこともあります。

## 外国証券への投資に伴うリスク

### 1) 為替変動リスク

ファンドが主として投資を行うマザーファンドでは、新興国の現地通貨建て債券を主要投資対象としますので、為替変動リスクが伴います。マザーファンドが保有する外貨建資産の円換算の価値は、その資産における価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。なお、マザーファンドは、対円での為替ヘッジは行いませんが、現地通貨建ての資産について、米ドルに対して為替ヘッジを行うことがあります。また、ヘッジ目的に限らず為替運用を行う場合があります。

ファンドが保有する実質外貨建資産については、為替ヘッジを行いませんので、当該外貨の為替レートが円高の方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となります。

### 2) カントリーリスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制等が設けられた場合には、基準価額が下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。

なお、ファンドおよびマザーファンドが投資する新興国の債券投資には以下のようなリスクがあります。

#### イ) 格付に関する留意点

新興国の債券は、格付がより上位の債券に比べて通常高い利回りを提供する一方、債券価格がより大きく変動することがあります。また、発行国の信用力等の変化、あるいは発行体の業績や財務内容等の変化による格付の変更や、特定の債券の信用度に関する市場の考え方が変わることによって、債券価格が大きく変動することがあります。

#### ロ) 経済状況および政治的・社会的な変化に伴うリスク

新興国においては、経済成長率、インフレ率、国際収支、外貨準備高等の各種経済指標によって象徴される経済状況の好転や悪化の度合いおよび速度が、先進国と比較して、一般に大きくなる傾向があると考えられ、また、政治不安、社会不安、他国との外交関係の悪化等により、金融・証券市場が混乱し、債券価格が大きく変動する可能性があります。

#### ハ) 流動性、制度、インフラストラクチャーに係るリスク

一般に先進諸国の証券市場に比べ、市場規模、証券取引量が小さく、法制度（証券市場の法制度、政府の規制、税制、外国への送金規制等）やインフラストラクチャーが未発達であると考えられ、債券の発行体等に対する投資家の権利保全措置や投資家の権利を迅速かつ公正に実現、執行する裁判制度の不備等により、元利金支払いの不履行および遅延等が生じた場合、投資資金の回収が困難になる可能性も含まれます。また、市況動向や取引量等の状況によっては、保有債券を市場実勢から期待される価格で売却できない場合があります。

#### ニ) 企業会計や情報の開示等に係るリスク

新興国においては、一般に、企業会計や情報開示等に係る法制度や習慣等が先進国とは異なることから、投資判断に際して正確な情報を十分確保できないことがあります。

## 流動性に関するリスク

証券やその他の投資対象商品を売買する際、その市場規模や取引量が小さい場合は、流動性が低下

し、本来想定される投資価値とは乖離した価格水準による取引が行われたり、価格の変動性が大きくなる傾向があると考えられます。また、政治・経済情勢の急変時等においては、流動性が極端に低下し、より一層、価格変動が大きくなることも想定されます。このように流動性が低下した場合には、基準価額が下落する要因となり投資元本を割り込むことがあります。

#### <その他の留意事項>

##### 換金に関する制限

1) 信託期間中であっても、下記のいずれかに該当する場合は、買付・換金の申込みを受付けません。

- ・国内の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日

2) 信託財産の資金管理を円滑に行うため、原則として1日1件あたり10億円を超える換金の申込みは行えません。なお、別途換金制限を設ける場合があります。

##### ファンドからの資金流出に伴うリスクおよび留意点

換金代金の支払資金を手当するために保有証券を大量に売却しなければならないことがあります。その際、市況動向や流動性等の状況によっては基準価額が大きく変動する要因となります。また、保有証券の売却代金の回収までの期間、一時的にファンドで資金借入れを行うことによってファンドの換金代金の支払いに対応する場合、借入金利はファンドが負担することになります。

##### 短期金融商品の信用リスク

ファンドおよびマザーファンドの資産をコール・ローン、譲渡性預金証書等の短期金融商品で運用する場合、債務不履行により損失が発生することがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

##### 収益分配金に関する留意事項

ファンドは、決算時に諸経費控除後の利子・配当収入および売買益等の中から毎月の安定的な分配に加え、3ヵ月毎には更に付加して分配することを目指しますが、これにより一定水準の収益分配金が支払われることを示唆あるいは保証するものではありません。分配対象額が少額の場合等には、分配を行わない場合があります。なお、基準価額が元本を下回っている場合でも分配を行うことがあります。

##### 信託の途中終了

受益者からの換金の申し出により、ファンドの受益権の口数が25億口を下回ることとなった場合、または取引市場の大幅な変動などその他やむを得ない事情の発生により運用の継続が困難と認められた場合には、信託期間の途中でも信託を終了させる場合があります。

##### 買付・換金の中止

金融商品取引所等<sup>\*</sup>における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）が生じた場合には、ファンドの買付、換金の各申込みの受付けを中止すること、あるいは、すでに受付けたそれらの申込みの受付けを取り消すことがあります。

\* 金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号に規定する外国金融商品市場をいいます。

##### 運用の基本方針に沿った運用ができない場合

ファンドおよびマザーファンドが投資を行う各国市場の混乱やファンドに大量の換金が生じた場合などには、機動的に保有資産の売却ができないことが想定されます。こうした場合を含め、資金動向、市況動向その他の要因等によっては、運用の基本方針にしたがった運用ができない場合があります。

##### 運用体制の変更ならびにファンドマネジャーの交代

ファンドおよびマザーファンドの運用体制は、今後、変更となる場合があります。

また、ファンドおよびマザーファンドは長期にわたり運用を行うために、信託期間の途中においてファンドマネジャーが交代となる場合があります。この場合においてもファンドの運用方針が変更されるものではありませんが、ファンドマネジャーの交代等に伴い、組入銘柄の入替等が行われる場合

があります。

店頭デリバティブ取引に適用される制限に関する留意点

店頭デリバティブ取引等の国際的な規制強化を受けて、一定のデリバティブ取引について、取引所等において取引し清算機関を通じて決済することが、また一定の店頭デリバティブ取引について清算機関における清算と証拠金の提供が求められることとなります。さらに一定の清算機関を通さない非清算店頭デリバティブ取引については、取引当事者間での証拠金の授受が求められることとなります。ファンドが店頭デリバティブ取引等を活用する場合、当該規制による店頭デリバティブ・ディーラーのコスト増を受けた運用管理費用の増大や、証拠金拠出に備えた現金等の保有比率の高まりによる投資対象資産の組入比率の低下等により、ファンドの投資目的達成に悪影響を及ぼす可能性があります。また、清算ブローカーや清算機関が支払不能又は債務不履行に陥った場合、ファンドが拠出した証拠金が回収できなくなり、清算金の返金が遅れる可能性があります。この他、規制対象とならない店頭デリバティブ取引を行う場合、規制対象のデリバティブ取引に比べ、信用リスクや決済リスクその他のリスクが複雑なものとなる可能性があります。

現金等の組入に関する留意事項

市場動向等によっては、短期金融資産や現金の実質的な組入比率が高まり、その他の投資対象資産の実質的な組入比率が低下する場合があります。

## （２）リスク管理体制

ファンドの運用リスク管理

### <シュローダー・グループ全体の運用リスク管理>

シュローダー・グループでは、発注および運用管理システムを導入し、投資ガイドラインチェック、ポートフォリオのモデリングおよびファンドマネジャーの運用指図、トレーダーの発注・約定などの業務プロセスを一貫して電子上で処理・管理しています。投資信託の約款に示されている運用方針や当社またはシュローダー・グループ内で統一的に定めた社内ルール等は、同システム上に設定されます。ファンドマネジャーがトレーダーに売買指示をする際に、システム上で投資ガイドラインに対する違反がないかどうかコンプライアンスチェックが実施され、遵守が確認されると注文はトレーダーに送信されます。遵守していない場合は、ただちにシステムから警告が発せられ、ファンドマネジャーは発注数量の変更や発注の取り消しなど必要な措置を講じることが要求されます。また、投資ガイドラインに抵触がないかどうかは、日次でポートフォリオ・コンプライアンスの担当者によりモニタリングされています。

内部牽制体制の整備状況

シュローダー・グループでは運用部門と管理部門を分離する一方、運用部門とトレーディング部門との分離もはかっています。これにより、運用部門は各ファンド毎に定められた投資制限の範囲内で投資判断を行い、トレーディング部門は最良発注および信託財産相互間の公平性の確保を目指しています。

また、当社のリスク部門等やシュローダー・グループの内部監査部門が各部門の業務手続きを見直し、改善の提言および改善の実施状況のチェックを行います。

さらに、当社のコンプライアンス部門のモニタリングにより各部門の手続きの遵守状況を定期的にチェックします。コンプライアンス部門ではまた、役職員に対し定期的にコンプライアンス・セッション等を行うことにより、関連法規制の重要事項および社内手続き等の周知徹底を行います。

内部検査・監査体制

当社のコンプライアンス部門は、年間モニタリング計画に基づいて、運用、営業、管理の各部門が法令・諸規則、協会諸規則および社内業務手続きに沿って運営されているかどうかについて管理体制等をチェックします。問題もしくは懸念事項が発見された場合には、必要な改善策とその実施スケジュールを各部門長と合意に至るまで協議し、合意された改善策の実施状況を確認します。また、シュローダー・グループの内部監査部門が定期的に当社を訪問し、各部門・業務に対する監査を行っています。

外部監査について

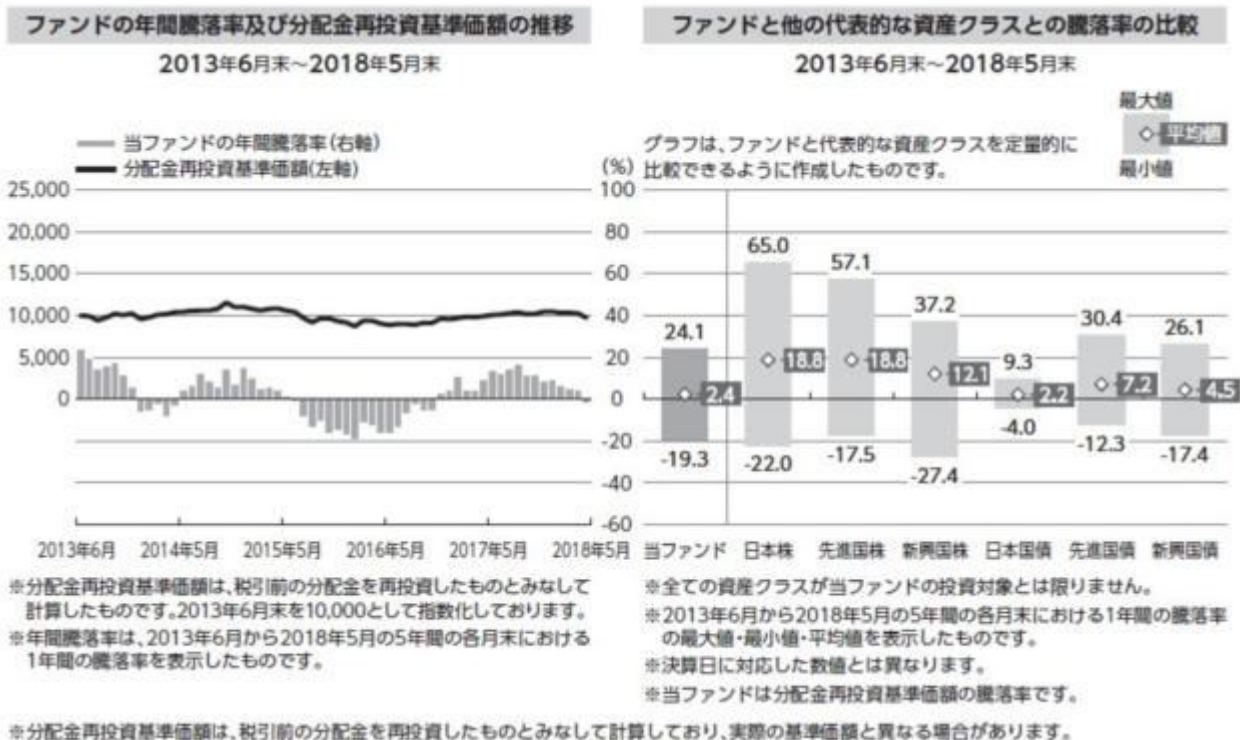
外部監査としては、会計監査並びに投信法に基づく投信ファンド監査、シュローダー・グループの財務諸表監査および諸手続きの監査、グローバル投資パフォーマンス基準（GIPS）<sup>\*</sup> 準拠の検証、投資一任契約に係わる資産運用管理業務に係る内部統制についての検証が、各々監査法人により定期的実施されています。

<sup>\*</sup> グローバル投資パフォーマンス基準（GIPS）とは、IPC（Investment Performance Council）が所管するパフォーマンス基準（資産運用会社が自社の投資パフォーマンスの記録を顧客に対して提示するための基準）をいいます。



上記体制は2018年5月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## 参考情報



### 各資産クラスの指数

- 日本株 … 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
  - 先進国株 … MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み, 円ベース)
  - 新興国株 … MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み, 円ベース)
  - 日本国債 … NOMURA-BPI国債
  - 先進国債 … FTSE世界国債インデックス (除く日本, 円ベース)
  - 新興国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)
- (注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

### ○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み, 円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み, 円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

#### MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み, 円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み, 円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCIは、本資料に含まれるいかなるMSCIのデータについても、明示的・黙示的に保証せず、またいかなる責任も負いません。MSCIのデータを、他の指数やいかなる有価証券、金融商品の根拠として使用する、あるいは再配布することは禁じられています。本資料はMSCIにより作成、審査、承認されたものではありません。いかなるMSCIのデータも、投資助言や投資に関する意思決定を行う事 (又は行わない事) の推奨の根拠として提供されるものではなく、また、そのようなものとして依頼されるべきものでもありません。

#### NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

#### FTSE世界国債インデックス (除く日本, 円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本, 円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 4【手数料等及び税金】



**（１）【申込手数料】**

販売会社が定めるものとします。

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.24%（税抜3.00%）を上限として販売会社が独自に定める申込手数料率を乗じて得た額とします。

申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

<分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース）>の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。

申込手数料は、受益権購入に伴い必要な商品等に関する説明・情報提供、および事務コスト等の対価です。

**（２）【換金（解約）手数料】**

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額（1口当たり）が差し引かれます。

「信託財産留保額」とは、受益者の公平を図るため、投資信託を解約される受益者の解約代金から差し引いて、信託財産に繰り入れる金額のことです。

**（３）【信託報酬等】**

信託報酬

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年率1.5984%（税抜1.48%）を乗じて得た額とします。

信託報酬の配分

信託報酬の配分は、以下の通りとします。

配分(年率/税抜)		役務の内容
委託会社	0.70%	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出ならびに公表運用報告書・有価証券報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等
販売会社	0.70%	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等
受託会社	0.08%	ファンドの財産保管・管理 委託会社からの指図の実行等

表中の率は税抜です。別途消費税がかかります。

委託会社の配分には、マザーファンドの運用委託先であるシュロダー・インベストメント・マネージメント・ノースアメリカ・インクに対する報酬が含まれております。

支払時期

信託報酬（信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。）は、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払います。

**（４）【その他の手数料等】**

ファンドから支払われる費用には次のものがあります。

株式等の売買委託手数料、先物取引やオプション取引等に要する費用およびこれらに係る消費税等相当額

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する費用、外貨建資産の保管等費用、借入金の利息、融資枠の設定に要する費用、受託会社が立替えた立替金の利息およびこれらに係る消費税等相当額

その他の諸費用およびこれらに係る消費税等相当額。なお、これらに該当する業務を委託する場合は、その委託費用を含みます。

1) 監査費用

- 2) 法律顧問・税務顧問への報酬および費用
- 3) 目論見書の作成・印刷・交付費用
- 4) 有価証券届出書・有価証券報告書等法定提出書類の作成・印刷・提出費用
- 5) 信託約款の作成・印刷・届出費用
- 6) 運用報告書の作成・印刷・交付費用
- 7) 公告に係る費用ならびに他の信託との併合、信託約款の変更および信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成・印刷・交付に係る費用
- 8) 投信振替制度に係る費用および手数料等
- 9) この信託の計理業務（設定解約処理、約定処理、基準価額算出、決算処理等）およびこれに付随する業務（法定帳簿管理、法定報告等）に係る費用
- 10) 格付の取得に要する費用

委託会社は、上記の諸費用の支払いをファンドのために行い、その金額を合理的に見積もった結果、信託財産の純資産総額の年率0.054%（税抜0.05%）相当額を上限として、係る諸費用の合計額とみなして、実際の金額のいかんにかかわらず、ファンドより受領します。ただし、委託会社は、信託財産の規模等を考慮して、信託の設定時または期中に、係る諸費用の年率を見直し、0.054%（税抜0.05%）を上限としてこれを変更することができます。

上記の諸費用は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に応じて計上されます。係る諸費用は、毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から委託会社に対して支弁されます。

上記の監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用です。

（4）その他の手数料等のうち、およびの費用は、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

上記（3）および（4）の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、事前に示すことができません。

#### （5）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）の適用対象です。

個人受益者の場合

##### 1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）のいずれかを選択することもできます。

##### 2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益（譲渡益）<sup>\*</sup>については譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座（源泉徴収選択口座）を選択している場合は、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。

\* 解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みません。）を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損（譲渡損失）については、上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当等および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限りません。）と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限りません。）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。また、未成年者少額投資非課税制度（ジュニアNISA）をご利用の場合、20歳未満の居住者などを対象に、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

## 法人受益者の場合

## 1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%（所得税のみ）の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。

## 2) 益金不算入制度の適用

益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

## 個別元本

## 1) 各受益者の買付時の基準価額（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が個別元本になります。

## 2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

## 普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

## 1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

## 2) 受益者が収益分配金を受け取る際

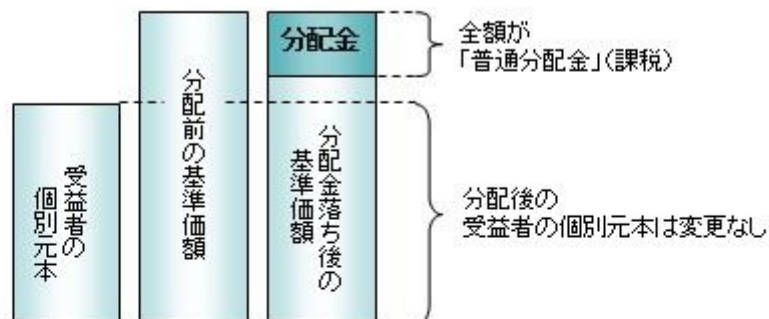
イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。

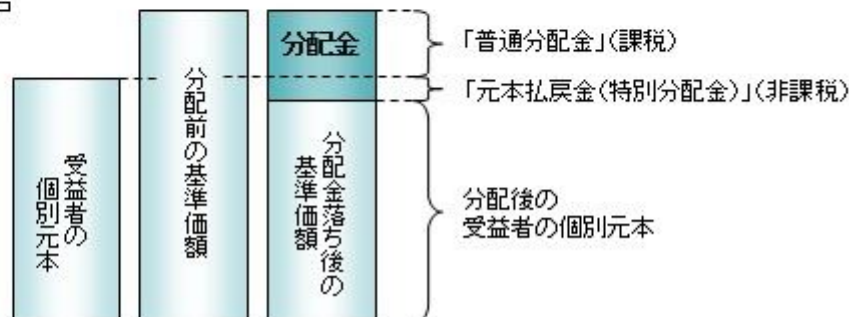
ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

## &lt;分配金に関するイメージ図&gt;

## イ) の場合



## ロ)、ハ) の場合



## 米国外国口座税務コンプライアンス法（以下「FATCA」といいます。）に基づく米国税務報告義務

米国における追加雇用対策法案の一環として、2010年3月18日に、2012年外国口座税務コンプライアンス法の規定が制定され、内国歳入法の一部となりました。FATCAには、外国金融機関（以下「FFI」といいます。）が、FATCAの目的における米国人またはFATCAの対象となる他の外国事業体により保有される受益証券に関する一定の情報を、米国内国歳入庁（以下「内国歳入庁」といいます。）に直接報告し、当該目的において追加の識別情報を集めるよう義務づける規定が含まれています。国内投資信託に関しては、ファンドおよびファンドの関係法人がFFIに該当し、それらが内国歳入庁に登録を行わない等

FATCAの遵守が行われない場合、米国を源泉とする収益の支払および米国を源泉とする収益を生み出す有価証券の販売を行うことによりもたらされる総手取金額に関し、30%の源泉徴収税の対象となることがあります。

FATCA上課される義務を遵守する目的で、2014年7月1日から、販売会社は、自らの顧客の米国税務上の立場を確認するため、顧客がFATCAの目的における特定の米国人、米国人所有の非米国事業体もしくは非参加FFI（以下「NPFFI」といいます。）に該当する場合、または必要書類を速やかに提供しない場合、関係法令に従い、当該顧客に関する情報を内国歳入庁へ報告する必要があります。また、受益者は、FATCAの目的における米国人の定義が現行の米国人の定義よりも幅広い投資家を含みうることに留意が必要となります。

上記は2018年5月末現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

### 【シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）】

以下の運用状況は2018年 5月31日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

#### （1）【投資状況】

資産の種類	国・地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	348,186,051	100.07
コール・ローン等、その他資産（負債控除後）		256,151	0.07
合計（純資産総額）		347,929,900	100.00

#### （2）【投資資産】

##### 【投資有価証券の主要銘柄】

##### イ. 評価額上位銘柄明細

国・地域	種類	銘柄名	数量又は額面総額	簿価単価（円）	簿価金額（円）	評価単価（円）	評価金額（円）	投資比率（％）
日本	親投資信託受益証券	シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド	269,306,251	1.3322	358,769,788	1.2929	348,186,051	100.07

##### ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	100.07
合計	100.07

##### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額(円)	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第4特定期間末 (2008年11月17日)	5,398	5,451	0.6135	0.6195
第5特定期間末 (2009年 5月15日)	5,812	5,855	0.6787	0.6837
第6特定期間末 (2009年11月16日)	5,525	5,564	0.7150	0.7200
第7特定期間末 (2010年 5月17日)	4,373	4,400	0.7234	0.7279
第8特定期間末 (2010年11月15日)	3,315	3,336	0.6968	0.7013
第9特定期間末 (2011年 5月16日)	2,611	2,629	0.6773	0.6818
第10特定期間末 (2011年11月15日)	1,711	1,724	0.5901	0.5946
第11特定期間末 (2012年 5月15日)	1,399	1,409	0.5988	0.6028
第12特定期間末 (2012年11月15日)	1,152	1,157	0.6150	0.6180
第13特定期間末 (2013年 5月15日)	1,253	1,258	0.7973	0.8003
第14特定期間末 (2013年11月15日)	954	959	0.6736	0.6766
第15特定期間末 (2014年 5月15日)	796	800	0.6822	0.6852
第16特定期間末 (2014年11月17日)	691	694	0.7165	0.7195
第17特定期間末 (2015年 5月15日)	588	591	0.6736	0.6766
第18特定期間末 (2015年11月16日)	474	476	0.5848	0.5878
第19特定期間末 (2016年 5月16日)	415	417	0.5317	0.5347
第20特定期間末 (2016年11月15日)	378	380	0.4989	0.5019
第21特定期間末 (2017年 5月15日)	402	404	0.5541	0.5561
第22特定期間末 (2017年11月15日)	385	386	0.5462	0.5482
第23特定期間末 (2018年 5月15日)	360	361	0.5300	0.5320
2017年 5月末日	396		0.5462	
6月末日	399		0.5530	
7月末日	399		0.5538	
8月末日	403		0.5601	
9月末日	405		0.5648	
10月末日	390		0.5511	
11月末日	387		0.5507	
12月末日	391		0.5619	
2018年 1月末日	387		0.5611	
2月末日	377		0.5520	
3月末日	376		0.5490	

4月末日	371		0.5441	
5月末日	347		0.5137	

(注)分配付きの金額は、特定期間末の金額に当該特定期間末の分配金を加算した金額です。

### 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第4特定期間	2008年 5月16日～2008年11月17日	0.0385
第5特定期間	2008年11月18日～2009年 5月15日	0.0340
第6特定期間	2009年 5月16日～2009年11月16日	0.0300
第7特定期間	2009年11月17日～2010年 5月17日	0.0275
第8特定期間	2010年 5月18日～2010年11月15日	0.0270
第9特定期間	2010年11月16日～2011年 5月16日	0.0270
第10特定期間	2011年 5月17日～2011年11月15日	0.0270
第11特定期間	2011年11月16日～2012年 5月15日	0.0240
第12特定期間	2012年 5月16日～2012年11月15日	0.0180
第13特定期間	2012年11月16日～2013年 5月15日	0.0180
第14特定期間	2013年 5月16日～2013年11月15日	0.0180
第15特定期間	2013年11月16日～2014年 5月15日	0.0180
第16特定期間	2014年 5月16日～2014年11月17日	0.0180
第17特定期間	2014年11月18日～2015年 5月15日	0.0180
第18特定期間	2015年 5月16日～2015年11月16日	0.0180
第19特定期間	2015年11月17日～2016年 5月16日	0.0180
第20特定期間	2016年 5月17日～2016年11月15日	0.0180
第21特定期間	2016年11月16日～2017年 5月15日	0.0140
第22特定期間	2017年 5月16日～2017年11月15日	0.0120
第23特定期間	2017年11月16日～2018年 5月15日	0.0120

### 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第4特定期間	2008年 5月16日～2008年11月17日	26.88
第5特定期間	2008年11月18日～2009年 5月15日	16.17
第6特定期間	2009年 5月16日～2009年11月16日	9.77
第7特定期間	2009年11月17日～2010年 5月17日	5.02
第8特定期間	2010年 5月18日～2010年11月15日	0.06
第9特定期間	2010年11月16日～2011年 5月16日	1.08
第10特定期間	2011年 5月17日～2011年11月15日	8.89
第11特定期間	2011年11月16日～2012年 5月15日	5.54
第12特定期間	2012年 5月16日～2012年11月15日	5.71
第13特定期間	2012年11月16日～2013年 5月15日	32.57

第14特定期間	2013年 5月16日～2013年11月15日	13.26
第15特定期間	2013年11月16日～2014年 5月15日	3.95
第16特定期間	2014年 5月16日～2014年11月17日	7.67
第17特定期間	2014年11月18日～2015年 5月15日	3.48
第18特定期間	2015年 5月16日～2015年11月16日	10.51
第19特定期間	2015年11月17日～2016年 5月16日	6.00
第20特定期間	2016年 5月17日～2016年11月15日	2.78
第21特定期間	2016年11月16日～2017年 5月15日	13.87
第22特定期間	2017年 5月16日～2017年11月15日	0.74
第23特定期間	2017年11月16日～2018年 5月15日	0.77

(注)各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（分配落ち）に当該特定期間の分配金を加算し、当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ち、以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

#### （４）【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第4特定期間	2008年 5月16日～2008年11月17日	2,080,412,587	1,134,467,112
第5特定期間	2008年11月18日～2009年 5月15日	71,970,637	306,166,371
第6特定期間	2009年 5月16日～2009年11月16日	50,774,910	887,432,952
第7特定期間	2009年11月17日～2010年 5月17日	41,558,266	1,724,539,883
第8特定期間	2010年 5月18日～2010年11月15日	28,136,804	1,315,686,785
第9特定期間	2010年11月16日～2011年 5月16日	19,940,334	921,331,123
第10特定期間	2011年 5月17日～2011年11月15日	7,255,534	962,796,161
第11特定期間	2011年11月16日～2012年 5月15日	9,556,211	572,830,391
第12特定期間	2012年 5月16日～2012年11月15日	4,704,268	468,800,016
第13特定期間	2012年11月16日～2013年 5月15日	6,683,131	307,783,450
第14特定期間	2013年 5月16日～2013年11月15日	4,558,533	159,226,147
第15特定期間	2013年11月16日～2014年 5月15日	2,974,134	252,429,583
第16特定期間	2014年 5月16日～2014年11月17日	1,774,857	204,150,014
第17特定期間	2014年11月18日～2015年 5月15日	1,527,955	93,439,115
第18特定期間	2015年 5月16日～2015年11月16日	1,537,691	64,003,094
第19特定期間	2015年11月17日～2016年 5月16日	11,843,519	42,107,778
第20特定期間	2016年 5月17日～2016年11月15日	2,221,697	24,951,426
第21特定期間	2016年11月16日～2017年 5月15日	3,899,107	35,653,524
第22特定期間	2017年 5月16日～2017年11月15日	3,729,245	25,230,520
第23特定期間	2017年11月16日～2018年 5月15日	3,789,552	28,687,352

（参考）

シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド

以下の運用状況は2018年 5月31日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## 投資状況

資産の種類	国・地域	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	アルゼンチン	15,466,773	0.71
	メキシコ	209,326,768	9.59
	ブラジル	210,290,206	9.63
	チリ	51,991,268	2.38
	コロンビア	149,256,572	6.84
	ペルー	57,804,258	2.65
	ウルグアイ	5,453,817	0.25
	トルコ	151,306,127	6.93
	チェコ	83,847,061	3.84
	ハンガリー	98,919,557	4.53
	ポーランド	184,064,022	8.43
	ロシア	148,177,271	6.79
	ルーマニア	58,884,013	2.70
	マレーシア	120,569,318	5.52
	タイ	168,190,109	7.71
	フィリピン	10,288,155	0.47
	インドネシア	204,603,933	9.37
	南アフリカ	178,819,986	8.19
	小計	2,107,259,214	96.54
コール・ローン等、その他資産（負債控除後）		75,453,309	3.46
合計（純資産総額）		2,182,712,523	100.00

## 投資資産

### 投資有価証券の主要銘柄

#### イ. 評価額上位銘柄明細

国・地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価 単価 （円）	簿価 金額 （円）	評価 単価 （円）	評価 金額 （円）	利率 （％）	償還期限	投資 比率 （％）
ブラジル	国債証券	BRAZIL 10% 01/01/21	3,935,000	3,073.51	120,942,930	3,106.61	122,245,251	10	2021/1/1	5.60
メキシコ	国債証券	MEXICO 6.5% 09/06/22	18,320,000	529.59	97,021,037	526.08	96,378,724	6.5	2022/6/9	4.42
コロンビア	国債証券	COLOMBIA 7.75% 14/04/21	2,398,000,000	4.04	97,043,221	4.01	96,327,804	7.75	2021/4/14	4.41
ブラジル	国債証券	BRAZIL 10% 01/01/23	2,940,000	3,116.69	91,630,882	2,994.72	88,044,955	10	2023/1/1	4.03
チェコ	国債証券	CZECH 0.45% 25/10/23	17,950,000	473.57	85,005,835	467.11	83,847,061	0.45	2023/10/25	3.84
メキシコ	国債証券	MEXICO 6.5% 10/06/21	14,375,000	538.56	77,419,294	531.92	76,464,377	6.5	2021/6/10	3.50



タイ	国債証券	THAILAND 2.125% 17/12/26	23,340,000	332.00	77,490,221	325.26	75,917,873	2.125	2026/12/17	3.48
ハンガリー	国債証券	HUNGARY 1.75% 26/10/22	181,580,000	40.14	72,899,751	39.81	72,288,976	1.75	2022/10/26	3.31
トルコ	国債証券	TURKEY 7.1% 08/03/23	3,790,000	1,769.16	67,051,227	1,821.46	69,033,467	7.1	2023/3/8	3.16
ポーランド	国債証券	POLAND 2.25% 25/04/22	2,250,000	2,904.02	65,340,583	2,945.75	66,279,593	2.25	2022/4/25	3.04
南アフリカ	国債証券	S.AFRICA 6.5% 28/02/41	9,945,000	624.39	62,095,865	633.38	62,990,296	6.5	2041/2/28	2.89
ポーランド	国債証券	POLAND 0% 25/07/20	2,120,000	2,842.01	60,250,676	2,839.07	60,188,369	0	2020/7/25	2.76
ペルー	国債証券	PERU 5.7% 12/08/24	1,685,000	3,511.54	59,169,450	3,430.51	57,804,258	5.7	2024/8/12	2.65
南アフリカ	国債証券	S.AFRICA 8.75% 28/02/48	7,000,000	817.79	57,245,526	810.42	56,729,977	8.75	2048/2/28	2.60
インドネシア	国債証券	INDONESIA 7.5% 15/05/38	7,256,000,000	0.76	55,487,503	0.76	55,747,848	7.5	2038/5/15	2.55
ロシア	国債証券	RUSSIA 7.5% 18/08/21	31,150,000	177.52	55,297,909	178.63	55,644,180	7.5	2021/8/18	2.55
インドネシア	国債証券	INDONESIA 7% 15/05/27	7,000,000,000	0.77	54,458,040	0.76	53,781,000	7	2027/5/15	2.46
コロンビア	国債証券	COLOMBIA 4.375% 21/03/23	1,460,000,000	3.58	52,279,591	3.62	52,928,768	4.375	2023/3/21	2.42
チリ	国債証券	CHILE 5.5% 05/08/20	288,500,000	18.26	52,684,026	18.02	51,991,268	5.5	2020/8/5	2.38
インドネシア	国債証券	INDONESIA 6.625%15/05/33	7,187,000,000	0.71	51,651,602	0.71	51,321,648	6.625	2033/5/15	2.35
マレーシア	国債証券	MALAYSIA 3.418% 15/08/22	1,800,000	2,674.16	48,134,933	2,675.16	48,152,885	3.418	2022/8/15	2.21
ロシア	国債証券	RUSSIA 6.4% 27/05/20	23,640,000	174.21	41,183,835	174.13	41,165,219	6.4	2020/5/27	1.89
トルコ	国債証券	TURKEY 10.5% 11/08/27	1,890,000	2,077.10	39,257,331	2,019.56	38,169,823	10.5	2027/8/11	1.75
ルーマニア	国債証券	ROMANIA 2.25% 26/02/20	1,425,000	2,670.55	38,055,353	2,676.91	38,146,090	2.25	2020/2/26	1.75
タイ	国債証券	THAILAND 3.65% 20/06/31	10,680,000	374.86	40,035,710	356.41	38,065,188	3.65	2031/6/20	1.74
メキシコ	国債証券	MEXICO 8% 07/12/23	6,560,000	572.13	37,531,866	556.15	36,483,667	8	2023/12/7	1.67
ポーランド	国債証券	POLAND 2.5% 25/07/26	1,105,000	2,752.07	30,410,479	2,810.41	31,055,127	2.5	2026/7/25	1.42
タイ	国債証券	THAILAND 3.625% 16/06/23	7,815,000	369.10	28,845,548	363.12	28,378,370	3.625	2023/6/16	1.30
マレーシア	国債証券	MALAYSIA 3.492% 31/03/20	1,015,000	2,729.48	27,704,235	2,721.38	27,622,045	3.492	2020/3/31	1.27
ハンガリー	国債証券	HUNGARY 3% 26/06/24	64,170,000	43.12	27,673,438	41.50	26,630,581	3	2024/6/26	1.22

## ロ.種類別の投資比率

種類	投資比率 (%)
国債証券	96.54
合計	96.54

## 投資不動産物件

該当事項はありません。

## その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

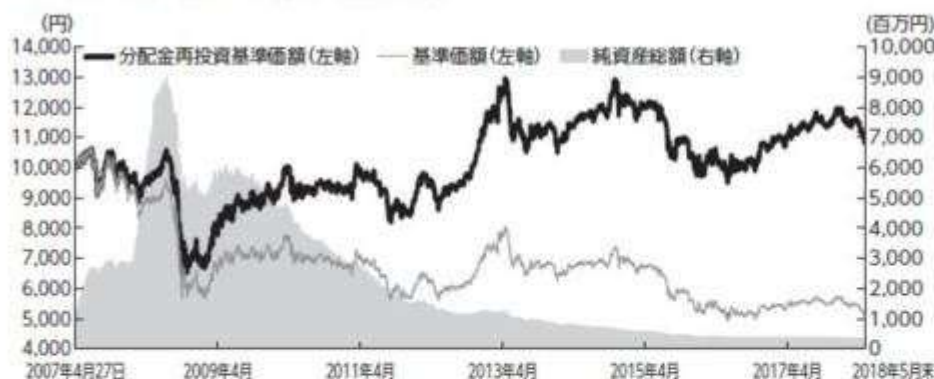
## 参考情報

### 運用実績

2018年5月末現在

## 基準価額・純資産の推移

### ■ 設定来の基準価額および純資産総額の推移



※分配金再投資基準価額は税引前分配金を再投資した場合の基準価額です。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の価額です。

※設定日:2007年4月27日

## 分配の推移

### ■ 分配金(1万口当たり、税引前)

決算期	2018年1月	2018年2月	2018年3月	2018年4月	2018年5月	直近1年間累計	設定来累計
分配金	20円	20円	20円	20円	20円	240円	5,140円

## 主要な資産の状況

### ■ 組入上位国/地域

順位	国/地域	投資比率(%)
1	ブラジル	9.63
2	メキシコ	9.59
3	インドネシア	9.37
4	ポーランド	8.43
5	南アフリカ	8.19
6	タイ	7.71
7	トルコ	6.93
8	コロンビア	6.84
9	ロシア	6.79
10	マレーシア	5.52

### ■ 組入上位通貨

順位	通貨	投資比率(%)
1	ブラジル・レアル	9.63
2	メキシコ・ペソ	9.59
3	インドネシア・ルピア	9.37
4	ポーランド・ズロチ	8.43
5	南アフリカ・ランド	8.19
6	タイ・バーツ	7.71
7	トルコ・リラ	6.93
8	コロンビア・ペソ	6.84
9	ロシア・ルーブル	6.79
10	マレーシア・リンギット	5.52

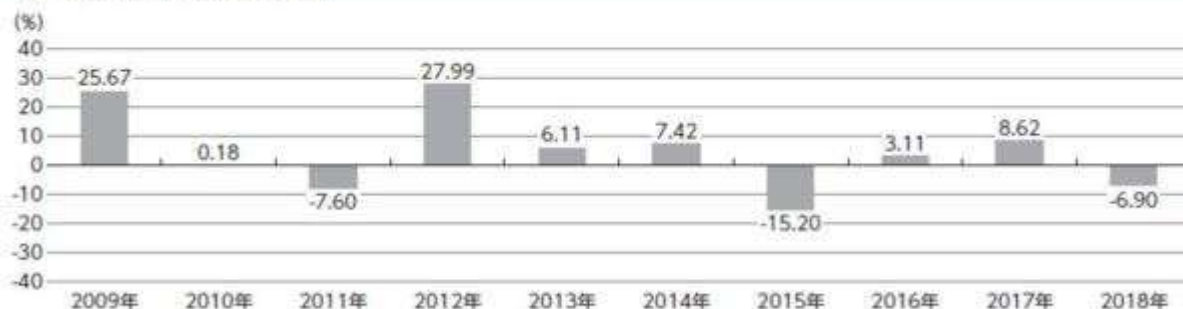
### ■ 組入上位銘柄

順位	銘柄	国/地域	投資比率(%)
1	ブラジル国債	ブラジル	5.60
2	メキシコ国債	メキシコ	4.42
3	コロンビア国債	コロンビア	4.41
4	ブラジル国債	ブラジル	4.03
5	チェコ国債	チェコ	3.84
6	メキシコ国債	メキシコ	3.50
7	タイ国債	タイ	3.48
8	ハンガリー国債	ハンガリー	3.31
9	トルコ国債	トルコ	3.16
10	ポーランド国債	ポーランド	3.04

※国/地域につきましては、委託会社の分類に基づいて表記しております。

※投資比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

## 年間収益率の推移



※ファンドにベンチマークはありません。

※2018年は1月から5月末までの騰落率です。

※ファンドの騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率です。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

## 第2【管理及び運営】

ファンドは、後記「3 資産管理等の概要（5） その他」に記載の繰上償還手続きに従って、繰上償還に対して異議申立てをされた受益者の受益権口数が、公告日（2018年8月15日）現在におけるファンドの受益権総口数の2分の1を超えない場合は、2018年11月15日をもって繰上償還いたします。

### 1【申込（販売）手続等】

#### （1）申込方法

販売会社所定の方法でお申し込みください。

#### （2）コースの選択

収益分配金の受取方法によって、＜分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース）＞と＜分配金受取りコース（一般コース）＞の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。

＜分配金再投資コース（自動けいぞく投資コース）＞

収益分配金を自動的に再投資するコースです。

＜分配金受取りコース（一般コース）＞

収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。

#### （3）申込みの受付

販売会社の営業日に受け付けます。

#### （4）取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

#### （5）取得申込不可日

販売会社の営業日であっても、取得申込日が下記のいずれかに該当する場合は、取得の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

- ・国内の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日

#### （6）申込金額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。

#### （7）申込単位

販売会社が定める単位とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### （8）申込代金の支払い

取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。

#### （9）受付の中止および取消

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、取得の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。

#### （10）米国人投資家に適用ある制限

ファンドは、1940年米国投資会社法（改正済）（以下「投資会社法」といいます。）に基づき登録されておらず、また登録される予定もありません。ファンドの受益証券は、1933年米国証券法（改正済）（以下「1933年証券法」といいます。）または米国のいずれかの州の証券法に基づき登録されておらず、登録される予定もなく、かかる受益証券は、1933年証券法および当該州の証券法またはその他の証券法を遵守する場合にのみ募集、販売、またはその他の方法により譲渡することができます。ファンドの受益証券は、米国内において、または米国人に対してもしくは米国人のために、もしくは、米国人が直接もしくは間接的な受益者である場合には、非米国人に対してもしくは非米国人のために、直接・間接的を問わず、募集または販売することができません。かかる目的において、米国人とは、1933年証券法に

基づくレギュレーションSのルール902または1986年内国歳入法（改正済）（以下「歳入法」といいます。）に定められた定義のとおりとします。

1933年証券法に基づくレギュレーションSのルール902において、米国人とは、特に、米国に居住する自然人、および、個人ではない投資家については、(i)米国または米国の州の法律に基づき設立された会社またはパートナーシップ、(ii)(a)受託者が米国人である信託（当該受託者が専門受託人であり、米国人でない共同受託者が信託財産について単独または共有の投資裁量権を有し、信託の受益権者（および信託が取消不能の場合には信託設定者）が米国人ではない信託）、または(b)裁判所が信託に関し第一の管轄権を有し、かつ、一または複数の米国の受託人が信託に関するあらゆる実質的な決定を支配する権限を有する信託、および(iii)(a)すべての源泉から世界中の所得に課される米国の課税対象となる財団、または(b)米国人が遺言執行者または管財人である財団（米国人でない当該財団の遺言執行者または管財人が当該財団の資産について単独または共有の投資裁量権を有し、かつ、当該財団が外国の法律に準拠する場合を除く。）を含むものとして定義されています。

また、「米国人」という用語は、以下の目的において、主に安定的投資（コモディティ・プール、投資会社またはその他同様の事業体等）を目的に設立された事業体を意味します。(a)当該運営者が非米国人である参加者により米国商品先物取引委員会が制定した規則のパート4の一定要件を免除されている、コモディティ・プールへの米国人による投資を促進することを目的として設立された事業体、または(b)1933年証券法に基づき登録されていない証券への投資を主たる目的として米国人により設立された事業体（ただし、自然人、財団もしくは信託ではない「認可投資家」（1933年証券法に基づきルール501(a)に定義される。）により設立および所有されている場合にはこの限りではありません。）。

歳入法上、米国人という用語は、以下に掲げる者を意味します。即ち、(i)米国の市民または居住者、(ii)米国の法律に基づき設立されたパートナーシップまたはその政治的下位機関、(iii)米国の法律に基づき設立される米国連邦所得税の目的上法人とみなされる会社もしくはその他の事業体、またはその政治的下位機関、(iv)源泉に関わらず、その所得に対して米国連邦所得税を課される財団、または(v)(a)米国内の裁判所が信託の運営について主たる監督権を行使することができ、一もしくは複数の米国人が信託のすべての実質的な決定を支配する権限を有する場合の信託、もしくは(b)1996年8月20日に存在しており、米国人としてみなされるために適切に選択された信託です。

自身の地位について疑義がある場合には、自らの金融アドバイザーまたはその他の専門アドバイザーに確認することをお勧めします。

## 2【換金（解約）手続等】

### < 解約請求による換金 >

#### (1) 解約の受付

販売会社の営業日に受け付けます。

#### (2) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

#### (3) 解約請求不可日

販売会社の営業日であっても、解約請求日が下記のいずれかに該当する場合は、解約請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

- ・国内の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日

#### (4) 解約制限

ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### (5) 解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額）を控除した価額とします。

- ・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

## &lt; 委託会社の照会先 &gt;

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

電話番号：03-5293-1323

受付時間：午前9時～午後5時まで（土、日、祝日は除きます）

ホームページアドレス：http://www.schroders.co.jp/

## (6) 手取額

- 1口当たりの手取額は、解約価額から所得税および地方税を差し引いた金額となります。  
 税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。  
 詳しくは、「課税上の取扱い」をご覧ください。

## (7) 解約単位

1口単位

販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

## (8) 解約代金の支払い

原則として、解約請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

## (9) 受付の中止および取消

- 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、解約請求の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。
- 解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が解約請求を受け付けない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。）に解約請求を受け付けたものとして取り扱います。

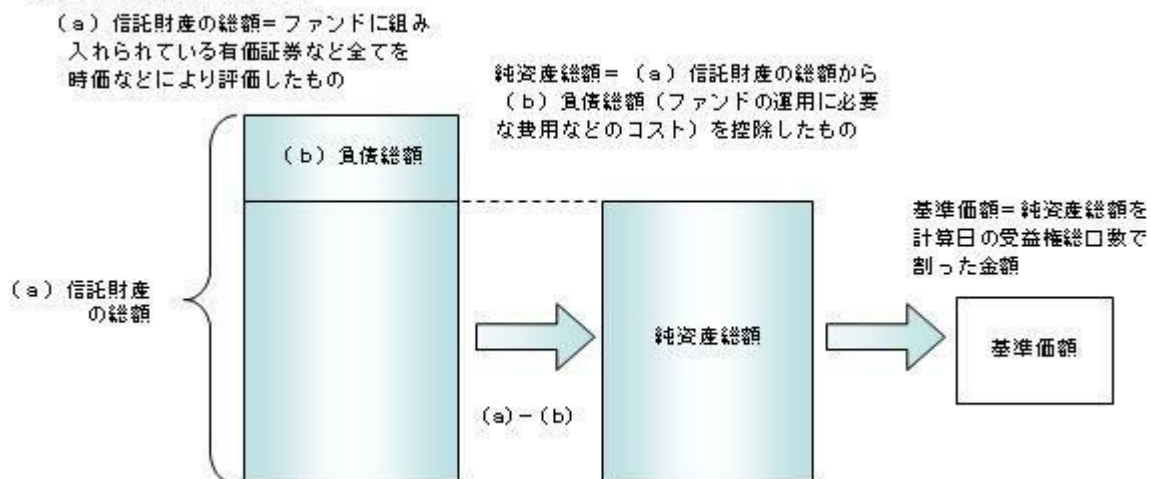
## 3【資産管理等の概要】

## (1) 【資産の評価】

基準価額の算出

- 基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。
- 基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入公社債を除きます。）を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額（純資産総額）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口当たりに換算した価額で表示することがあります。

## &lt; 基準価額算出の流れ &gt;



有価証券などの評価基準

- 信託財産に属する資産については、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価します。

## &lt; 主な資産の評価方法 &gt;

## マザーファンド受益証券

基準価額計算日の基準価額で評価します。

## 外国公社債

原則として、基準価額計算日に知りうる直近の日における以下のいずれかの価額で評価します。

- ・ 日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）
- ・ 金融商品取引業者（第一種金融商品取引業者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。）、銀行などの提示する価額（売気配相場を除きます。）
- ・ 価格情報会社の提供する価額

残存期間1年以内の公社債などについては、一部償却原価法により評価することができます。

- ・ 外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客相場の仲値によって計算します。為替予約取引の評価については、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算します。

## 基準価額の照会方法

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

## &lt; 委託会社の照会先 &gt;

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

電話番号：03-5293-1323

受付時間：午前9時～午後5時まで（土、日、祝日は除きます）

ホームページアドレス：<http://www.schroders.co.jp/>

## (2) 【保管】

該当事項はありません。

## (3) 【信託期間】

無期限とします（2007年4月27日設定）<sup>\*</sup>。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

<sup>\*</sup> 信託終了（繰上償還）となった場合、信託期間は2018年11月15日までとなります。

## (4) 【計算期間】

毎月16日から翌月15日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

## (5) 【その他】

## 信託の終了（繰上償還）

- 1) 委託会社は、次のいずれかの場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。
  - イ) 受益者の解約により受益権の口数が25億口を下回ることとなった場合
  - ロ) 繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
  - ハ) やむを得ない事情が発生したとき
- 2) この場合、あらかじめ、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この繰上償還に異議のある受益者は、一定の期間内（1ヵ月以上で委託会社が定めます。以下同じ。）に異議を述べるすることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
- 4) 委託会社は、次のいずれかの場合には、後述の「異議の申立て」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
  - イ) 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合で、一定の期間を設けてその公告および書面の交付が困難な場合
  - ロ) 監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
  - ハ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監



監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じ、異議申立の結果、信託約款の変更が成立の場合を除きます。）

二) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合またはその任務に違反するなどして解任された場合に、委託会社が新受託会社を選任できないとき

5) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

償還金について

- ・ 償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日まで）から受益者に支払います。
- ・ 償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

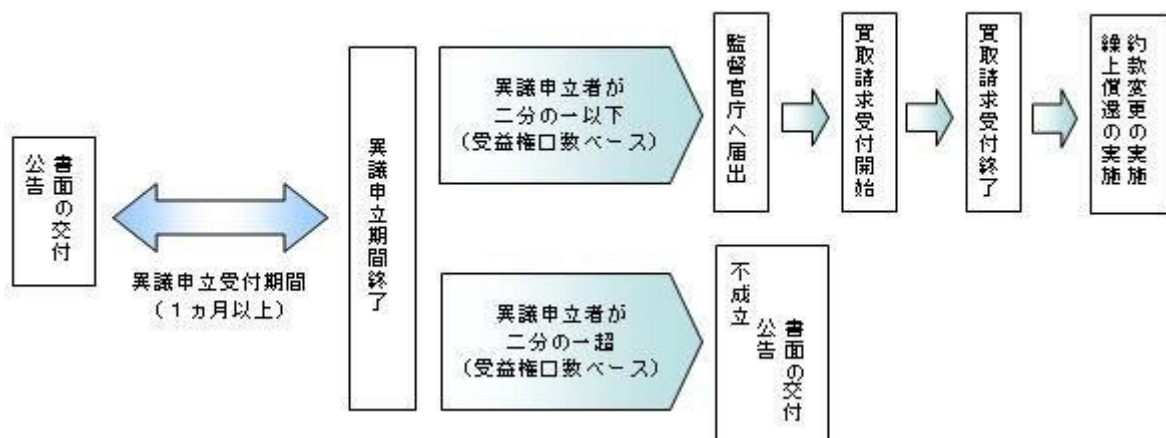
信託約款の変更

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、この信託約款を変更することができます。信託約款の変更を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。
- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、その旨およびその内容などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行ないません。
- 3) この信託約款の変更に異議のある受益者は、一定の期間内に異議を述べることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
- 4) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「異議の申立て」の規定を適用します。

異議の申立て

- 1) 繰上償還または信託約款の重大な変更に対して、受益者は一定の期間内に委託会社に対して所定の手続きにより異議を述べることができます。一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一を超えるときは、繰上償還または信託約款の変更は行ないません。
- 2) 委託会社は、繰上償還または信託約款の変更を行なわない場合は、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行ないません。
- 3) なお、一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一以下で、繰上償還、信託約款の変更を行なう場合は、異議を述べた受益者は受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買い取るべき旨を請求できます。

<繰上償還、信託約款の重大な変更を行なう場合の手続きの流れ>



公告

公告は日本経済新聞に掲載します。

運用報告書の作成

- ・ 委託会社は、年2回（5月、11月）および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成します。
- ・ 交付運用報告書は原則として、販売会社を通じて知れている受益者に対して交付されます。
- ・ 運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付請求があった場合には、交付します。

ホームページアドレス：<http://www.schroders.co.jp/>

## 関係法人との契約について

- ・販売会社との募集の取扱いなどに関する契約の有効期間は契約日より1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに、販売会社、委託会社いずれからも別段の意思表示がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以後も同様とします。
- ・投資顧問会社とのマザーファンドにおける運用の指図に関する権限の委託契約は、当該ファンドの信託期間終了まで存続します。ただし、投資顧問会社、委託会社が重大な契約違反を行なったとき、その他契約を継続し難い重大な事由があるときは、相手方に通知をなすことにより契約を終了することができます。

## 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

## (1) 収益分配金・償還金受領権

- ・受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。
- ・ただし、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行なわない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

## (2) 解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき販売会社を通じて、委託会社に解約の請求をすることができます。

## (3) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。



### 第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月ごとに作成しております。
- (3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第23特定期間（平成29年11月16日から平成30年5月15日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

#### 1【財務諸表】

## 【シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）】

## （１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第22特定期間 (平成29年11月15日現在)	第23特定期間 (平成30年 5月15日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
親投資信託受益証券	387,134,722	362,355,079
未収入金	707,822	128
流動資産合計	387,842,544	362,355,207
資産合計	387,842,544	362,355,207
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	1,410,306	1,360,510
未払解約金	707,822	128
未払受託者報酬	28,074	25,368
未払委託者報酬	491,304	443,962
その他未払費用	17,524	15,836
流動負債合計	2,655,030	1,845,804
負債合計	2,655,030	1,845,804
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	705,153,284	680,255,484
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	319,965,770	319,746,081
（分配準備積立金）	2,796,228	3,244,064
元本等合計	385,187,514	360,509,403
純資産合計	385,187,514	360,509,403
負債純資産合計	387,842,544	362,355,207

## ( 2 ) 【損益及び剰余金計算書】

( 単位：円 )

	第22特定期間 (自 平成29年 5月16日 至 平成29年11月15日)	第23特定期間 (自 平成29年11月16日 至 平成30年 5月15日)
営業収益		
有価証券売買等損益	6,373,806	554,538
営業収益合計	6,373,806	554,538
営業費用		
受託者報酬	174,199	163,699
委託者報酬	3,048,515	2,864,756
その他費用	108,754	102,196
営業費用合計	3,331,468	3,130,651
営業利益又は営業損失( )	3,042,338	2,576,113
経常利益又は経常損失( )	3,042,338	2,576,113
当期純利益又は当期純損失( )	3,042,338	2,576,113
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	58,621	140,446
期首剰余金又は期首欠損金( )	324,010,677	319,965,770
剰余金増加額又は欠損金減少額	11,212,513	12,907,888
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	11,212,513	12,907,888
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,666,359	1,694,927
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,666,359	1,694,927
分配金	8,602,206	8,276,713
期末剰余金又は期末欠損金( )	319,965,770	319,746,081

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
-----------------	--

## (貸借対照表に関する注記)

	第22特定期間 [平成29年11月15日現在]	第23特定期間 [平成30年 5月15日現在]
1. 投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	726,654,559円	705,153,284円
期中追加設定元本額	3,729,245円	3,789,552円
期中解約元本額	25,230,520円	28,687,352円
2. 受益権の総数	705,153,284口	680,255,484口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は319,965,770円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は319,746,081円であります。

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

	第22特定期間 自 平成29年 5月16日 至 平成29年11月15日	第23特定期間 自 平成29年11月16日 至 平成30年 5月15日
1. 分配金の計算過程	(平成29年 5月16日から平成29年 6月15日まで) 計算期間末における解約に伴う当期純損失金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,163,008円)、解約に伴う当期純損失金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(305,839円)及び分配準備積立金(2,012,299円)より、分配対象収益は3,481,146円(1万口当たり48.30円)であり、うち1,441,198円(1万口当たり20円)を分配金額としております。	(平成29年11月16日から平成29年12月15日まで) 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,302,551円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(325,506円)及び分配準備積立金(2,790,852円)より、分配対象収益は4,418,909円(1万口当たり62.64円)であり、うち1,410,670円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

<p>（平成29年 6月16日から平成29年 7月18日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（3,566,202円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（314,071円）及び分配準備積立金（1,729,122円）より、分配対象収益は5,609,395円（1万口当たり77.86円）であり、うち1,440,438円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>	<p>（平成29年12月16日から平成30年 1月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（3,164,662円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（321,700円）及び分配準備積立金（2,644,003円）より、分配対象収益は6,130,365円（1万口当たり88.30円）であり、うち1,388,193円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>
<p>（平成29年 7月19日から平成29年 8月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純損失金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（1,015,568円）、解約に伴う当期純損失金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（316,475円）及び分配準備積立金（3,853,923円）より、分配対象収益は5,185,966円（1万口当たり71.98円）であり、うち1,440,652円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>	<p>（平成30年 1月16日から平成30年 2月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（979,177円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（321,642円）及び分配準備積立金（4,399,478円）より、分配対象収益は5,700,297円（1万口当たり82.55円）であり、うち1,380,603円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>
<p>（平成29年 8月16日から平成29年 9月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（1,543,819円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（317,015円）及び分配準備積立金（3,418,623円）より、分配対象収益は5,279,457円（1万口当たり73.50円）であり、うち1,436,244円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>	<p>（平成30年 2月16日から平成30年 3月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（898,381円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（322,698円）及び分配準備積立金（3,972,195円）より、分配対象収益は5,193,274円（1万口当たり75.80円）であり、うち1,370,026円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>
<p>（平成29年 9月16日から平成29年10月16日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（1,154,745円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（317,730円）及び分配準備積立金（3,519,849円）より、分配対象収益は4,992,324円（1万口当たり69.64円）であり、うち1,433,368円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>	<p>（平成30年 3月16日から平成30年 4月16日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（1,556,747円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（323,643円）及び分配準備積立金（3,493,185円）より、分配対象収益は5,373,575円（1万口当たり78.61円）であり、うち1,366,711円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>

	<p>（平成29年10月17日から平成29年11月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純損失金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（999,322円）、解約に伴う当期純損失金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（313,989円）及び分配準備積立金（3,207,212円）より、分配対象収益は4,520,523円（1万口当たり64.09円）であり、うち1,410,306円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>	<p>（平成30年 4月17日から平成30年 5月15日まで）</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純損失金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（934,721円）、解約に伴う当期純損失金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、信託約款に規定される収益調整金（323,879円）及び分配準備積立金（3,669,853円）より、分配対象収益は4,928,453円（1万口当たり72.44円）であり、うち1,360,510円（1万口当たり20円）を分配金額としております。</p>
2. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用	委託者報酬のうち、販売会社へ支払う手数料を除いた額より、運用権限委託契約に定められた報酬額を支払っております。	同左

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

	第22特定期間 自 平成29年 5月16日 至 平成29年11月15日	第23特定期間 自 平成29年11月16日 至 平成30年 5月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であり、有価証券の内容は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。これらは、株価変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用部門におけるリサーチや投資判断において、運用リスクの管理に重点を置くプロセスを導入しています。さらに、これら運用プロセスから独立した部門が、運用制限・ガイドラインの遵守状況を含めたファンドの運用状況について随時モニタリングを行い、運用部門に対する牽制が機能する仕組みとしており、これらの体制によりファンド運用に関するリスクを管理しています。	同左

## 金融商品の時価等に関する事項

	第22特定期間 [平成29年11月15日現在]	第23特定期間 [平成30年 5月15日現在]
1. 計上額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

第22特定期間(平成29年11月15日現在)

売買目的有価証券

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	8,101,605円
合計	8,101,605円

第23特定期間(平成30年 5月15日現在)

売買目的有価証券

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	10,059,249円
合計	10,059,249円

## (デリバティブ取引等に関する注記)



該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第22特定期間 [平成29年11月15日現在]	第23特定期間 [平成30年 5月15日現在]
1口当たり純資産額	0.5462円	0.5300円
(1万口当たり純資産額)	(5,462円)	(5,300円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	シュローダー・エマージング・ソブリン債券 (現地通貨建て) マザーファンド	271,875,060	362,355,079	
合計		271,875,060	362,355,079	

注) 親投資信託受益証券における券面総額の数値は証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

当ファンドは「シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券です。

なお、同ファンドの状況は以下の通りです。

「シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

（参考）

シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド

貸借対照表

	（単位：円）	
	（平成29年11月15日現在）	（平成30年 5月15日現在）
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	3,670,115	5,184,027
コール・ローン	88,714,806	61,687,050
国債証券	2,224,057,598	2,185,108,163
派生商品評価勘定	12,203	20,595
未収利息	27,197,717	20,480,018
前払費用	11,406,297	10,546,316
流動資産合計	2,355,058,736	2,283,026,169
資産合計	2,355,058,736	2,283,026,169
<b>負債の部</b>		
流動負債		
派生商品評価勘定	44,674	-
未払解約金	707,822	128
未払利息	255	158
その他未払費用	862	1,677
流動負債合計	753,613	1,963
負債合計	753,613	1,963
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,765,935,718	1,712,917,941
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	588,369,405	570,106,265
元本等合計	2,354,305,123	2,283,024,206
純資産合計	2,354,305,123	2,283,024,206
負債純資産合計	2,355,058,736	2,283,026,169

（注）「シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド」の計算期間は原則として毎年11月16日から翌年11月15日までであり、当ファンドの計算期間と異なります。上記の貸借対照表は、平成29年11月15日及び平成30年 5月15日における同ファンドの状況であります。

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1.有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券 個別法に基づき、原則として金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない。）又は価格情報会社の提供する価額で時価評価しております。
2.デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。

	直物為替先渡取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては価格情報会社の提供する価額で評価しております。
3. その他財務諸表作成の為の基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

## (貸借対照表に関する注記)

	[平成29年11月15日現在]	[平成30年 5月15日現在]
1. 投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	1,810,513,473円	1,765,935,718円
期中追加設定元本額	5,107,327円	2,191,317円
期中解約元本額	49,685,082円	55,209,094円
元本の内訳		
ファンド名		
シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）	290,380,080円	271,875,060円
シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（1年決算型）	36,341,067円	30,914,280円
シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（適格機関投資家専用）	1,439,214,571円	1,410,128,601円
計	1,765,935,718円	1,712,917,941円
2. 受益権の総数	1,765,935,718口	1,712,917,941口

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

	自 平成29年 5月16日 至 平成29年11月15日	自 平成29年11月16日 至 平成30年 5月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左

2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であり、有価証券の内容は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。これらは、株価変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。 当ファンドは為替変動リスクの低減を図ることに限定せず、為替予約取引及び直物為替先渡取引を行う場合があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用部門におけるリサーチや投資判断において、運用リスクの管理に重点を置くプロセスを導入しています。さらに、これら運用プロセスから独立した部門が、運用制限・ガイドラインの遵守状況を含めたファンドの運用状況について随時モニタリングを行い、運用部門に対する牽制が機能する仕組みとしており、これらの体制によりファンド運用に関するリスクを管理しています。	同左

## 金融商品の時価等に関する事項

	[平成29年11月15日現在]	[平成30年 5月15日現在]
1. 計上額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左

3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左
------------------------	---	----

（有価証券に関する注記）

（平成29年11月15日現在）

売買目的有価証券

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	4,049,197円
合計	4,049,197円

（平成30年 5月15日現在）

売買目的有価証券

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	1,733,061円
合計	1,733,061円

注) 当計算期間の損益に含まれた評価差額は、親投資信託の期首日からシュロダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）の期末日までの期間に対応する金額であります。

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

（平成29年11月15日現在）

（単位：円）

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引以外	直物為替先渡取引				

の取引	買建	2,679,449	-	2,684,369	4,920
	チリペソ	2,679,449	-	2,684,369	4,920
	売建	6,616,032	-	6,653,423	37,391
	チリペソ	2,691,651	-	2,684,369	7,282
	フィリピンペソ	3,924,381	-	3,969,054	44,673
合計		9,295,481	-	9,337,792	32,471

（平成30年 5月15日現在）

（単位：円）

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外 の取引	直物為替先渡取引				
	売建	4,387,928	-	4,367,333	20,595
	フィリピンペソ	4,387,928	-	4,367,333	20,595
合計		4,387,928	-	4,367,333	20,595

（注）時価の算定方法

1. 価格情報会社が計算日の対顧客相場の仲値を基準として計算し、提供する価額により評価しております。
2. 直物為替先渡取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 直物為替先渡取引の残高は、対米ドルの取引残高を邦貨換算して表示しております。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	[平成29年11月15日現在]	[平成30年 5月15日現在]
1口当たり純資産額	1.3332円	1.3328円
(1万口当たり純資産額)	(13,332円)	(13,328円)

附属明細表

第1 有価証券明細表  
(1) 株式

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	アルゼンチンペソ	ARGENTINE 21.2% 19/09/18	3,495,000.00	3,452,245.66	
	アルゼンチンペソ 小計		3,495,000.00	3,452,245.66 (15,155,358)	
	メキシコペソ	MEXICO 5.75% 05/03/26	4,105,000.00	3,647,210.40	
		MEXICO 6.5% 09/06/22	10,605,000.00	10,193,207.85	
		MEXICO 6.5% 10/06/21	14,375,000.00	13,957,693.75	
		MEXICO 7.5% 03/06/27	3,100,000.00	3,066,349.50	
		MEXICO 8% 07/12/23	6,560,000.00	6,674,832.80	
	メキシコペソ 小計		38,745,000.00	37,539,294.30 (210,220,048)	
	ブラジルリアル	BRAZIL 10% 01/01/21	3,500,000.00	3,756,907.00	
		BRAZIL 10% 01/01/23	2,940,000.00	3,120,127.92	
		BRAZIL 10% 01/01/25	340,000.00	357,215.90	
	ブラジルリアル 小計		6,780,000.00	7,234,250.82 (219,053,114)	
	チリペソ	CHILE 5.5% 05/08/20	288,500,000.00	300,651,620.00	
	チリペソ 小計		288,500,000.00	300,651,620.00 (52,764,359)	
	コロンビアペソ	COLOMBIA 4.375% 21/03/23	1,460,000,000.00	1,401,861,340.00	
		COLOMBIA 7.75% 14/04/21	2,398,000,000.00	2,554,349,600.00	
	コロンビアペソ 小計		3,858,000,000.00	3,956,210,940.00 (153,105,363)	
	ペルーヌエボソル	PERU 6.85% 12/02/42	1,575,000.00	1,726,530.75	
	ペルーヌエボソル 小計		1,575,000.00	1,726,530.75 (58,149,555)	
	ウルグアイペソ	URUGUAY 8.5% 15/03/28	700,000.00	658,875.00	
		URUGUAY 9.875% 20/06/22	900,000.00	924,862.50	
	ウルグアイペソ 小計		1,600,000.00	1,583,737.50 (5,669,780)	
	新トルコリラ	TURKEY 10.5% 11/08/27	910,000.00	769,518.75	
TURKEY 8.5% 10/07/19		705,000.00	656,531.25		
TURKEY 8.5% 14/09/22		1,955,000.00	1,569,865.00		



	TURKEY 8.8% 27/09/23	985,000.00	795,880.00	
	TURKEY 9.2% 22/09/21	1,655,000.00	1,395,992.50	
新トルコリラ 小計		6,210,000.00	5,187,787.50	(130,524,733)
チェココルナ	CZECH 0.45% 25/10/23	17,950,000.00	17,196,997.50	
チェココルナ 小計		17,950,000.00	17,196,997.50	(88,392,567)
ハンガリーフォリント	HUNGARY 1.75% 26/10/22	169,400,000.00	170,989,835.94	
	HUNGARY 3% 26/06/24	64,170,000.00	68,029,068.29	
ハンガリーフォリント 小計		233,570,000.00	239,018,904.23	(99,192,845)
ポーランドズロチ	POLAND 0% 25/07/20	2,275,000.00	2,199,925.00	
	POLAND 2.25% 25/04/22	2,250,000.00	2,253,600.00	
	POLAND 2.5% 25/01/23	900,000.00	900,900.00	
	POLAND 2.5% 25/07/26	1,105,000.00	1,055,882.75	
ポーランドズロチ 小計		6,530,000.00	6,410,307.75	(196,475,932)
ロシアルーブル	RUSSIA 6.4% 27/05/20	41,740,000.00	41,687,407.60	
	RUSSIA 7.5% 18/08/21	31,150,000.00	31,951,333.75	
	RUSSIA 7.6% 20/07/22	14,745,000.00	15,210,057.30	
	RUSSIA 7.75% 16/09/26	9,900,000.00	10,233,630.00	
ロシアルーブル 小計		97,535,000.00	99,082,428.65	(175,375,898)
ルーマニアレイ	ROMANIA 2.25% 26/02/20	1,500,000.00	1,476,090.00	
	ROMANIA 5.75% 29/04/20	730,000.00	762,853.65	
ルーマニアレイ 小計		2,230,000.00	2,238,943.65	(63,406,884)
マレーシアリングgit	MALAYSIA 3.418% 15/08/22	810,000.00	790,560.00	
	MALAYSIA 3.492% 31/03/20	1,015,000.00	1,010,432.50	
	MALAYSIA 3.654% 31/10/19	665,000.00	664,335.00	
	MALAYSIA 3.9% 30/11/26	870,000.00	848,899.54	
	MALAYSIA 4.181% 15/07/24	975,000.00	978,836.52	
	MALAYSIA 4.254% 31/05/35	365,000.00	335,980.27	
マレーシアリングgit 小計		4,700,000.00	4,629,043.83	(128,594,837)
タイバーツ	THAILAND 2.125% 17/12/26	23,340,000.00	22,615,447.04	

	THAILAND 3.625% 16/06/23	7,815,000.00	8,424,515.29
	THAILAND 3.65% 17/12/21	7,190,000.00	7,663,353.65
	THAILAND 3.65% 20/06/31	11,460,000.00	12,283,724.17
タイパーツ 小計		49,805,000.00	50,987,040.15 (175,395,418)
フィリピンペソ	PHILIPPINE 4.95% 15/01/21	5,000,000.00	4,983,000.00
フィリピンペソ 小計		5,000,000.00	4,983,000.00 (10,414,470)
インドネシアルピア	INDONESIA 5.625% 15/05/23	9,945,000,000.00	9,532,282,500.00
	INDONESIA 6.625% 15/05/33	2,978,000,000.00	2,753,161,000.00
	INDONESIA 7.5% 15/08/32	1,401,000,000.00	1,385,589,000.00
	INDONESIA 7% 15/05/27	7,000,000,000.00	6,916,000,000.00
	INDONESIA 8.25% 15/05/36	944,000,000.00	994,740,000.00
	INDONESIA 8.375 15/03/34	3,943,000,000.00	4,169,722,500.00
インドネシアルピア 小計		26,211,000,000.00	25,751,495,000.00 (203,436,810)
南アフリカランド	S.AFRICA 10.5% 21/12/26	4,360,000.00	4,935,520.00
	S.AFRICA 6.5% 28/02/41	15,335,000.00	11,398,045.45
	S.AFRICA 6.75% 31/03/21	4,145,000.00	4,075,965.02
	S.AFRICA 9% 31/01/40	2,080,000.00	2,037,682.19
南アフリカランド 小計		25,920,000.00	22,447,212.66 (199,780,192)
合計			2,185,108,163 (2,185,108,163)

注) 1. 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

2. 合計欄の金額は円を表示しております。また( )内の金額は外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。

3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アルゼンチンペソ	国債証券 1銘柄	100.0%	0.7%
メキシコペソ	国債証券 5銘柄	100.0%	9.6%
ブラジルリアル	国債証券 3銘柄	100.0%	10.1%
チリペソ	国債証券 1銘柄	100.0%	2.4%
コロンビアペソ	国債証券 2銘柄	100.0%	7.0%

ペルーヌエボソル	国債証券	1銘柄	100.0%	2.7%
ウルグアイペソ	国債証券	2銘柄	100.0%	0.3%
新トルコリラ	国債証券	5銘柄	100.0%	6.0%
チェココルナ	国債証券	1銘柄	100.0%	4.0%
ハンガリーフォリント	国債証券	2銘柄	100.0%	4.5%
ポーランドズロチ	国債証券	4銘柄	100.0%	9.0%
ロシアルーブル	国債証券	4銘柄	100.0%	8.0%
ルーマニアレイ	国債証券	2銘柄	100.0%	2.9%
マレーシアリングット	国債証券	6銘柄	100.0%	5.9%
タイバーツ	国債証券	4銘柄	100.0%	8.0%
フィリピンペソ	国債証券	1銘柄	100.0%	0.5%
インドネシアアルピア	国債証券	6銘柄	100.0%	9.3%
南アフリカランド	国債証券	4銘柄	100.0%	9.1%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。

## 2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2018年 5月31日現在です。

### 【シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	348,195,349円
負債総額	265,449円
純資産総額（ - ）	347,929,900円
発行済口数	677,266,291口
1口当たり純資産額（ / ）	0.5137円

（参考）

シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）マザーファンド

#### 純資産額計算書

資産総額	2,267,881,225円
負債総額	85,168,702円
純資産総額（ - ）	2,182,712,523円
発行済口数	1,688,290,662口
1口当たり純資産額（ / ）	1.2929円

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

### （1）名義書換

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求を行なわないものとします。

### （2）受益者に対する特典

該当事項はありません。

### （3）譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

#### 受益権の譲渡

- ・受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ・前述の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社債、株式等の振替に関する法律の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ・前述の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている

振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合などにおいて、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

#### 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

#### (4) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

#### (5) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

#### (6) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払いなどについては、約款の規定によるほか、民法その他の法令などにしたがって取り扱われます。

### 第三部【委託会社等の情報】

#### 第1【委託会社等の概況】

##### 1【委託会社等の概況】

###### (1) 資本金の額

2018年5月末現在	資本金	490,000,000円
	発行可能株式総数	39,200株
	発行済株式総数	9,800株

過去5年間における主な資本金の増減  
該当事項はありません。

###### (2) 委託会社の機構（2018年5月末現在）

###### 経営体制

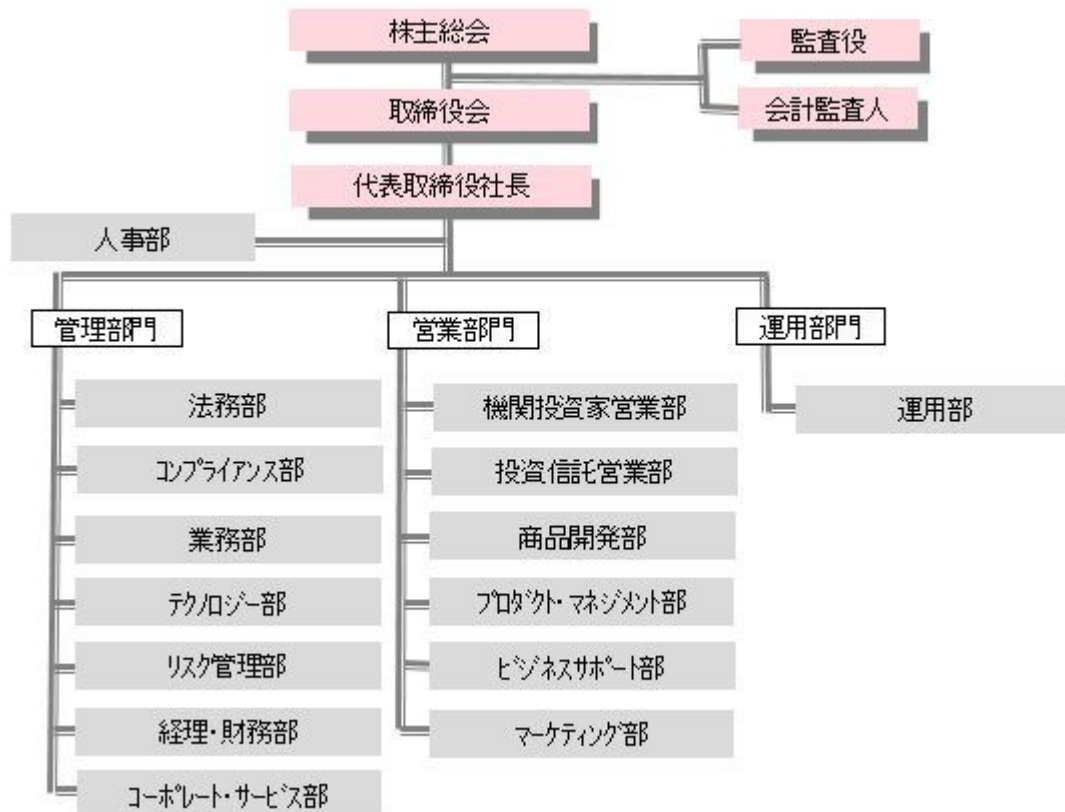
委託会社の業務執行等に関する意思決定機関としてある取締役会は、15名以内の取締役で構成されま  
す。取締役の選任は株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有  
する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行います。

取締役会はその決議をもって代表取締役1名以上を選任し、うち1名を代表取締役社長とします。また、  
取締役会はその決議をもって、取締役会長、取締役副会長、取締役最高経営責任者、取締役副社長、専  
務取締役および常務取締役を任命することができます。

取締役会はその決議をもって委託会社の経営に関するすべての重要事項、法令または定款によって定め  
られた事項を決定します。

取締役会を招集するには、各取締役および監査役に対し、会日の少なくとも3日前までに招集通知を発し  
なければなりません。ただし、取締役および監査役全員の同意を得て、招集期間を短縮し、または招集  
手続を省略することができます。法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会は取締役会長が招集  
し、議長となります。取締役会長に事故のある場合、あるいは取締役会長が任命されていない場合に  
は、代表取締役の1名がこれに代わり、代表取締役のいずれにも事故のあるときには、予め取締役会の決  
議によって定められた順序に従って他の取締役がこの任にあたります。

委託会社の業務運営の組織体系は以下の通りです。



#### 投資運用に関する意思決定プロセス

Plan (計画)	基本的な運用方針は、シュローダー・グループのエコノミスト・チームが提供するマクロリサーチ情報および各運用チームによる企業リサーチ、マーケット分析等の情報を踏まえ、各運用チームの銘柄選定会議およびポートフォリオ構築会議等の運用会議を経て決定されます。
Do (実行)	各運用チームのファンドマネジャーは、運用会議の議論内容等を踏まえ、運用基本方針および顧客毎の運用ガイドラインに従って、ポートフォリオを構築します。
See (検証)	プロダクトマネジャーは月次で Schroder Investment Risk Exception Notification[SIREN]システムに於いて、各ポートフォリオが個別の運用ガイドラインに抵触していないかの確認、サインオフを行います。SIRENシステムは、運用チームから独立した、専任のインベストメント・リスク・チームによって管理され、その内容は四半期毎にリスク・コミッティー(株式ヘッドおよび債券ヘッドが主催)で承認されます。問題が生じた場合は、Schroder Investment Risk Framework[SIRF]にて議論されます。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として証券投資信託の運用その他の投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業および付随業務を行っています。

2018年5月末現在、委託会社が運用する証券投資信託は以下のとおりです（ただし、親投資信託を除きます。）。

ファンドの種類	本数	純資産総額（円）
追加型株式投資信託	60	743,448,396,469

## 3【委託会社等の経理状況】

(1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59



号)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。なお、財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第27期事業年度(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	第26期 (平成28年12月31日)	第27期 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
預金	2,247,081	2,193,310
立替金	498	127
前払費用	57,386	58,096
貸付金	2,000,000	1,500,000
未収入金	365,739	347,462
未収委託者報酬	710,009	778,980
未収運用受託報酬	1,217,426	1,658,805
1年内受取予定の長期差入保証金	200	285
繰延税金資産	627,082	684,263
<b>流動資産合計</b>	<b>7,225,424</b>	<b>7,221,329</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物附属設備(純額)	*1 30,705	25,387
器具備品(純額)	*1 80,233	66,323
<b>有形固定資産合計</b>	<b>110,938</b>	<b>91,710</b>
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	3,699	3,699
ソフトウェア	33,407	19,574
<b>無形固定資産合計</b>	<b>37,107</b>	<b>23,274</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	5,872	8,663
長期差入保証金	239,464	244,149
その他投資	950	950
貸倒引当金	950	950
繰延税金資産	427,991	473,069
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>673,328</b>	<b>725,882</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>821,374</b>	<b>840,867</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,046,799</b>	<b>8,062,197</b>

(単位：千円)

	第26期 (平成28年12月31日)	第27期 (平成29年12月31日)
--	-----------------------	-----------------------

**負債の部**

**流動負債**

預り金		50,819	60,367
未払金			
未払収益分配金		75	75
未払償還金		14,012	14,012
未払手数料		196,199	217,434
その他未払金	*2	1,895,483	2,127,560
未払費用		62,749	58,330
未払法人税等		323,451	565,383
未払消費税等		61,789	139,883
流動負債合計		2,604,580	3,183,047
固定負債			
長期未払金	*2	599,548	786,157
長期未払費用		4,427	8,450
退職給付引当金		859,177	868,018
役員退職慰労引当金		37,066	21,104
資産除去債務		88,869	90,113
固定負債合計		1,589,090	1,773,845
負債合計		4,193,671	4,956,893
純資産の部			
株主資本			
資本金		490,000	490,000
資本剰余金			
資本準備金		500,000	500,000
資本剰余金合計		500,000	500,000
利益剰余金			
その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		2,862,893	2,115,315
利益剰余金合計		2,862,893	2,115,315
株主資本合計		3,852,893	3,105,315
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		234	11
評価・換算差額等合計		234	11
純資産合計		3,853,128	3,105,303
負債純資産合計		8,046,799	8,062,197

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第26期		第27期	
	自	平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日	自	平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日
営業収益				
委託者報酬		2,622,715		3,010,303
運用受託報酬		4,310,848		5,622,359
その他営業収益		3,540,406		3,145,778
営業収益計		10,473,971		11,778,442
営業費用				
支払手数料		882,417		910,569
広告宣伝費		94,748		94,310
公告費		780		780

調査費		
調査費	195,993	179,751
委託調査費	1,352,260	2,081,724
図書費	2,454	1,499
事務委託費	316,583	323,578
営業雑経費		
通信費	27,662	26,892
印刷費	10,574	11,129
協会費	9,278	10,474
諸会費	3,905	3,638
営業費用計	*1	2,896,659
一般管理費		
給料		
役員報酬	439,537	443,075
給料・手当	1,402,374	1,513,479
賞与	1,207,233	1,360,736
交際費	6,470	8,863
旅費交通費	67,689	54,711
租税公課	37,069	70,549
不動産賃借料	247,157	241,471
退職給付費用	116,557	125,013
役員退職慰労引当金繰入	6,014	13,978
法定福利費	175,541	201,661
固定資産減価償却費	57,124	52,975
諸経費	1,500,298	1,521,184
一般管理費計	*1	5,263,069
営業利益（ 営業損失）		2,314,242
営業外収益		
受取利息	572	744
受取配当金	26	13
有価証券売却益	-	171
為替差益	4,550	-
雑益	31,754	2,172
営業外収益計		36,904
営業外費用		
有価証券売却損	137	-
為替差損	-	21,905
事務処理損失	-	96
雑損失	674	192
営業外費用計		812
経常利益（ 経常損失）		2,350,334
特別損失		
固定資産除却損	1,992	0
特別損失計		1,992
税引前当期純利益		
（ 税引前当期純損失）		2,348,342
法人税、住民税及び事業税	837,854	907,138
法人税等調整額	158,643	102,258
法人税等合計	679,211	804,880
当期純利益（ 当期純損失）		1,669,130

## （ 3 ） 【株主資本等変動計算書】

第26期（自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金				
		資本 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
当期首残高	490,000	500,000	1,193,763		2,183,763	148	2,183,911
当期変動額							
剰余金の配当			-		-		-
当期純利益			1,669,130		1,669,130		1,669,130
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						85	85
当期変動額合計	-	-	1,669,130		1,669,130	85	1,669,216
当期末残高	490,000	500,000	2,862,893		3,852,893	234	3,853,128

第27期（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金				
		資本 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
当期首残高	490,000	500,000	2,862,893		3,852,893	234	3,853,128
当期変動額							
剰余金の配当			2,450,000		2,450,000		2,450,000
当期純利益			1,702,421		1,702,421		1,702,421
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						246	246
当期変動額合計	-	-	747,578		747,578	246	747,824
当期末残高	490,000	500,000	2,115,315		3,105,315	11	3,105,303

## 重要な会計方針

1．有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券 時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）によっております。</p>
2．固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法によっております。ただし、平成28年4月1日以降取得の建物附属設備については、定額法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法によっております。ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p>

3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## (貸借対照表関係)

第26期 平成28年12月31日現在	第27期 平成29年12月31日現在
*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物附属設備 144,495千円 器具備品 165,532千円	*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物附属設備 153,534千円 器具備品 164,688千円
*2 関係会社項目 その他未払金 229,880千円 長期未払金 240,530千円	*2 関係会社項目 その他未払金 272,607千円 長期未払金 273,833千円

## (損益計算書関係)

第26期 自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日	第27期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日
-	*1 関係会社項目 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 営業費用 1,553,322千円 一般管理費 303,613千円

## (株主資本等変動計算書関係)

第26期（自平成28年1月1日至平成28年12月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	第26期事業年度 期首株式数	第26期事業年度 増加株式数	第26期事業年度 減少株式数	第26期事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	9,800株	-	-	9,800株
合計	9,800株	-	-	9,800株

## 2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

#### 4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

第27期（自平成29年1月1日至平成29年12月31日）

##### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	第27期事業年度 期首株式数	第27期事業年度 増加株式数	第27期事業年度 減少株式数	第27期事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	9,800株	-	-	9,800株
合計	9,800株	-	-	9,800株

##### 2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

##### 3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

##### 4. 配当に関する事項

###### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年 3月29日 株主総会	普通株式	1,960,000	200,000	平成28年 12月31日	平成29年 3月31日
平成29年 9月19日 取締役会	普通株式	490,000	50,000	平成29年 6月30日	平成29年 9月29日

###### (2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

##### (リース取引関係)

第26期 自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日		第27期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料		オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料	
1年内	1,493千円	1年内	5,005千円
1年超	- 千円	1年超	6,256千円
合計	1,493千円	合計	11,261千円

##### (金融商品関係)

###### 1. 金融商品の状況に関する事項

第26期 自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日	第27期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日

<p>(1) 金融商品に対する取組方針 当社は顧客の資産運用を行う上で、自己資金に関しても安全な運用を心掛けております。余剰資金は安全性の高い金融資産で運用し、また、デリバティブ取引等も行っておりません。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 当座預金は、預金保険の対象であるため信用リスクはありませんが、普通預金及び定期預金は、銀行の信用リスクに晒されております。 貸付金、営業債権である未収委託者報酬および未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。 未収入金およびその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。</p> <p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理 預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関でのみ運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。 貸付金は海外の関連会社に対するものであり、概ね3ヵ月程度と短期であり、期限前でも必要に応じて一部または全ての返済を要求できるという契約のため、回収が不能となるリスクは僅少であります。 未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、投資信託または取引相手ごとに残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。 また、未収入金は、概ね、海外の関連会社との取引により生じたものであり、原則、翌月中に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。</p> <p>市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理 外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクに関しては、個別の案件ごとに毎月残高照合等を行い、原則、翌月中に決済が行われる事により、リスクは僅少であります。</p> <p>流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理 余剰資金は最長でも1ヵ月の定期預金または関連会社への要求払い条件付き短期貸付で運用することにより、流動性リスクを管理しております。</p>	<p>(1) 金融商品に対する取組方針 同左</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 当座預金は、預金保険の対象であるため信用リスクはありません。 貸付金、営業債権である未収委託者報酬および未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。 未収入金、未収運用受託報酬、その他未払金および長期未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。</p> <p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理 同左</p> <p>市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理 同左</p> <p>流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理 余剰資金はキャッシュフロー分析に基づき、関連会社への要求払い条件付き短期貸付で運用することにより、流動性リスクを管理しております。</p>
---	---

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

第26期（平成28年12月31日現在）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 預金	2,247,081	2,247,081	-
(2) 貸付金	2,000,000	2,000,000	-
(3) 未収入金	365,739	365,739	-
(4) 未収委託者報酬	710,009	710,009	-
(5) 未収運用受託報酬	1,217,426	1,217,426	-
資産計	6,540,256	6,540,256	-
(1) 未払手数料	196,199	196,199	-
(2) その他未払金	1,895,483	1,895,483	-
(3) 長期未払金	599,548	601,747	2,198
負債計	2,691,231	2,693,430	2,198

第27期（平成29年12月31日現在）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 預金	2,193,310	2,193,310	-
(2) 貸付金	1,500,000	1,500,000	-
(3) 未収入金	347,462	347,462	-
(4) 未収委託者報酬	778,980	778,980	-
(5) 未収運用受託報酬	1,658,805	1,658,805	-
資産計	6,478,557	6,478,557	-
(1) 未払手数料	217,434	217,434	-
(2) その他未払金	2,127,560	2,127,560	-
(3) 長期未払金	786,157	788,042	1,884
負債計	3,131,153	3,133,038	1,884

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

第26期 平成28年12月31日現在	第27期 平成29年12月31日現在
資産	資産
(1) 預金 預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。	(1) 預金 同左
(2) 貸付金 貸付金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。	(2) 貸付金 同左
(3) 未収入金 未収入金は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。	(3) 未収入金 同左



<p>(4) 未収委託者報酬 未収委託者報酬は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。</p>	<p>(4) 未収委託者報酬 同左</p>
<p>(5) 未収運用受託報酬 未収運用受託報酬は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。</p>	<p>(5) 未収運用受託報酬 同左</p>
<p>負債</p>	<p>負債</p>
<p>(1) 未払手数料 未払手数料は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。</p>	<p>(1) 未払手数料 同左</p>
<p>(2) その他未払金 その他未払金は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。</p>	<p>(2) その他未払金 同左</p>
<p>(3) 長期未払金 長期未払金の時価の算定は、合理的に見積りした支払予定時期に基づき、日本国債の利回りで割り引いた現在価値によっております。</p>	<p>(3) 長期未払金 同左</p>

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第26期（平成28年12月31日現在）

（単位：千円）

	1年以内	1年超
預金	2,247,081	-
貸付金	2,000,000	-
未収入金	365,739	-
未収委託者報酬	710,009	-
未収運用受託報酬	1,217,426	-
合計	6,540,256	-

第27期（平成29年12月31日現在）

（単位：千円）

	1年以内	1年超
預金	2,193,310	-
貸付金	1,500,000	-
未収入金	347,462	-
未収委託者報酬	778,980	-
未収運用受託報酬	1,658,805	-
合計	6,478,557	-

(注3) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

第26期（平成28年12月31日現在）

該当事項はありません。

第27期（平成29年12月31日現在）

該当事項はありません。

## （有価証券関係）

## 1. その他有価証券

第26期（平成28年12月31日現在）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 証券投資信託受益証券	3,937	3,568	369
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 証券投資信託受益証券	1,934	2,070	135
合計	5,872	5,638	234

第27期（平成29年12月31日現在）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 証券投資信託受益証券	4,782	4,615	167
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 証券投資信託受益証券	3,880	4,060	179
合計	8,663	8,675	11

## 2. 事業年度中に売却したその他有価証券

第26期（自平成28年1月1日至平成28年12月31日）

財務諸表等規則第8条の7により記載を省略しております。

第27期（自平成29年1月1日至平成29年12月31日）

財務諸表等規則第8条の7により記載を省略しております。

## （退職給付関係）

第26期 自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日	第27期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日																
<p>1. 採用している退職給付制度の概要 当社は、従業員の退職給付に充てるため、退職一時金制度を採用しております。 当社が有する退職一時金制度では、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しており、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。</p> <p>2. 確定給付制度 (1)退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首における退職給付引当金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">796,438千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">116,557千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td style="text-align: right;">53,818千円</td> </tr> <tr> <td>期末における退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">859,177千円</td> </tr> </table>	期首における退職給付引当金	796,438千円	退職給付費用	116,557千円	退職給付の支払額	53,818千円	期末における退職給付引当金	859,177千円	<p>1. 採用している退職給付制度の概要 同左</p> <p>2. 確定給付制度 (1)退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首における退職給付引当金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">859,177千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">125,013千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td style="text-align: right;">116,172千円</td> </tr> <tr> <td>期末における退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">868,018千円</td> </tr> </table>	期首における退職給付引当金	859,177千円	退職給付費用	125,013千円	退職給付の支払額	116,172千円	期末における退職給付引当金	868,018千円
期首における退職給付引当金	796,438千円																
退職給付費用	116,557千円																
退職給付の支払額	53,818千円																
期末における退職給付引当金	859,177千円																
期首における退職給付引当金	859,177千円																
退職給付費用	125,013千円																
退職給付の支払額	116,172千円																
期末における退職給付引当金	868,018千円																

(2)退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された前払年金費用及び退職給付引当金の調整表	(2)退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された前払年金費用及び退職給付引当金の調整表
積立型制度の退職給付債務	積立型制度の退職給付債務
年金資産	年金資産
非積立型制度の退職給付債務	非積立型制度の退職給付債務
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	貸借対照表に計上された負債と資産の純額
退職給付引当金	退職給付引当金
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	貸借対照表に計上された負債と資産の純額
(3)退職給付に関連する損益 簡便法で計算した退職給付費用	(3)退職給付に関連する損益 簡便法で計算した退職給付費用
116,557千円	125,013千円

## (税効果会計関係)

第26期 自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日	第27期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日
1. 繰延税金資産発生的主要原因別内訳 繰延税金資産	1. 繰延税金資産発生的主要原因別内訳 繰延税金資産
千円	千円
未払費用否認	未払費用否認
退職給付引当金損金	退職給付引当金損金
算入限度超過額	算入限度超過額
役員退職慰労引当金否認	役員退職慰労引当金否認
資産除去債務	資産除去債務
その他	その他
繰延税金資産小計	繰延税金資産小計
評価性引当額	評価性引当額
繰延税金資産合計	繰延税金資産合計
繰延税金資産の純額	繰延税金資産の純額
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳
法定実効税率	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。
(調整)	
役員賞与等永久に損金	
算入されない項目	
評価性引当額	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	
過年度法人税等	
法人税額の特別控除額	
その他	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	

<p>3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産の金額の修正</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成28年3月29日に、また、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」が平成28年11月18日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産の計算（ただし、平成29年1月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の32.26%から、解消が見込まれる期間が平成29年1月1日から平成30年12月31日までのものは30.86%、平成31年1月1日以降のものについては30.62%にそれぞれ変更しております。その結果、繰延税金資産の金額は52,815千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。</p>	-
--	---

（資産除去債務関係）

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

当社は、本社オフィスの賃借契約において、建物所有者との間で貸室賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を10年間（建物附属設備の減価償却期間）と見積り、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回り（1.4%）を使用して、資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	第26期		第27期	
	自	平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日	自	平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日
期首残高		87,642千円		88,869千円
有形固定資産の取得に伴う増加額		- 千円		- 千円
その他増減額（は減少）		1,226千円		1,244千円
期末残高		88,869千円		90,113千円

2. 貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

<セグメント情報>

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。

従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

<関連情報>

第26期（自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）

1. 製品およびサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託業	投資顧問業	海外ファンド サービス	その他	合計
外部顧客への 営業収益	2,622,715	4,310,848	2,586,536	953,870	10,473,971

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
7,916,799	2,557,171	10,473,971

(注) 海外外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める地域はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

第27期（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

## 1. 製品およびサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託業	投資顧問業	海外ファンド サービス	その他	合計
外部顧客への 営業収益	3,010,303	5,622,359	2,370,990	774,788	11,778,442

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
8,168,481	3,609,960	11,778,442

(注) 海外外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める地域はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント
A社（ ）	1,290,189	投資顧問業

（ ）A社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。

&lt; 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報 &gt;

該当事項はありません。

&lt; 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報 &gt;

該当事項はありません。

## &lt; 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報 &gt;

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引）

第26期（自平成28年1月1日至平成28年12月31日）

## 1 関連当事者との取引

## （1）親会社

（単位：千円）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
最終親会社	シュローダー・ピーエルシー	イギリス、ロンドン市	282.5百万ポンド	持株会社	被所有 間接100%	当社の最終親会社	一般管理費（役員および従業員の賞与の負担金）（注1）	185,595	その他未払金 長期未払金	229,880 240,530

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）当社の役員及び従業員への賞与の支払いの一部は、シュローダー・ピーエルシーより行われております。但し、これらの費用はシュローダー・ピーエルシーより当社に請求されるものであり、未払いの金額については、シュローダー・ピーエルシーに対する債務として処理しております。

## （2）兄弟会社等

（単位：千円）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の 子会社 （注2）	シュローダー・フィナンシャル・サービスズ・リミテッド	イギリス、ロンドン市	61.6百万ポンド	資金管理業	-	余資の貸付等	受取利息 資金の貸付（注6）	49 2,000,000	貸付金 未収入金	2,000,000 49
親会社の 子会社 （注3）	シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッド	イギリス、ロンドン市	70.0百万ポンド	投資運用業	-	運用受託契約の再委任等	運用受託報酬の受取（注7） サービス提供業務報酬の受取（注8） 情報提供業務報酬の受取（注9）	51,382 454,812 205,442	未収運用受託報酬 未収入金	5,278 104,244

							役務提供業務 の対価の受取 （注9）	289,764		
							運用再委託報 酬の支払 （注7）	678,268	未払金(そ の他未払 金)	162,975
							一般管理費(諸 経費)の支払 （注9）	280,589		
							一般管理費 （出向者人件 費の負担金） （注10）	146,277		
兄弟会社 （注4）	シュローダー・イ ンベストメント・ マネージメント・ （シンガポー ル）・リミテッド	シンガポール	50.7 百万 シンガ ポール ドル	投資 運用業	-	運用受託契 約の再委 任、業務委 託等	運用受託報酬 の受取（注7）	6,009	未収運用 受託報酬	955
							サービス提供 業務報酬の受 取（注8）	293,578	未収入金	53,064
							役務提供業務 の対価の受取 （注9）	91,910		
							運用再委託報 酬の支払 （注7）	8,183	未払金(そ の他未払 金)	100,434
							一般管理費(諸 経費)の支払 （注9）	762,719		
兄弟会社 の子会社 （注5）	シュローダー・イ ンベストメント・ マネージメント （ルクセンブル ク）・エス・エー	ルクセンブル ク	12.8 百万 ユーロ	資産 管理業	-	運用受託契 約の再委任 等	運用受託報酬 の受取（注7）	1,394,780	未収運用 受託報酬	117,120
							サービス提供 業務報酬の受 取（注8）	1,184,231	未収入金	133,645
							役務提供業務 の対価の受取 （注9）	260,098		
							運用再委託報 酬の支払 （注7）	515,281	未払金(そ の他未払 金)	63,385

- (注2) 当社の最終親会社であるシュローダー・ピーエルシーが、直接の子会社であるシュローダー・アドミニストレーション・リミテッドを通して、シュローダー・フィナンシャル・サービスズ・リミテッドの議決権の100%を保有しております。
- (注3) 当社の最終親会社であるシュローダー・ピーエルシーが、直接の子会社であるシュローダー・アドミニストレーション・リミテッドを通して、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの議決権の100%を保有しております。
- (注4) 当社の親会社であるシュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッドが、シュローダー・インベストメント・マネジメント・(シンガポール)・リミテッドの議決権の100%を保有しております。
- (注5) 当社の兄弟会社であるシュローダー・インターナショナル・ファイナンス・ピー・ヴィーが、シュローダー・インベストメント・マネジメント(ルクセンブルグ)・エス・エーの議決権の100%を保有しております。
- (注6) 資金の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済期間は概ね3ヶ月であります。なお、担保は受け入れておりません。
- (注7) 各社間の運用受託報酬の收受については、各ファンドの契約毎に契約運用資産に対する各社の運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。
- (注8) 各社間のサービス提供業務の報酬の收受については、各ファンドの契約毎に、当初募集金額および残存口数の割合に応じた一定の比率により決定しております。
- (注9) 情報提供業務・役務提供業務・調査費・その他営業費用及び一般管理費(諸経費)の報酬の收受については、当業務に関する支出を勘案して合理的な金額により行っております。
- (注10) シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドより出向している役員及び従業員への給与、賞与の支払いは、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドより行われております。但し、これらの費用はシュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドより当社に請求されるものであり、未払いの金額については、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに対する債務として処理しております。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### (1) 親会社情報

シュローダー・ピーエルシー（最終親会社、ロンドン証券取引所に上場）

シュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッド（親会社、非上場）

### (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項はありません。

第27期（自平成29年1月1日至平成29年12月31日）

### 1 関連当事者との取引

#### (1) 親会社

(単位：千円)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	シュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッド	イギリス、ロンドン市	425.5 百万 ポンド	持株会社	被所有 直接100%	当社への出資	剰余金の配当	2,450,000	-	-
最終親会社	シュローダー・ピーエルシー	イギリス、ロンドン市	282.5 百万 ポンド	持株会社	被所有 間接100%	当社の最終親会社	一般管理費(役員および従業員の賞与の負担金) (注1)	211,344	未払金(その他未払金) 長期未払金	272,607 273,833

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 当社の役員及び従業員への賞与の支払いの一部は、シュローダー・ピーエルシーより行われております。但し、これらの費用はシュローダー・ピーエルシーより当社に請求されるものであり、未払いの金額については、シュローダー・ピーエルシーに対する



債務として処理しております。

## (2) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社 (注2)	シュローダー・フィナンシャル・サービスズ・リミテッド	イギリス、ロンドン市	61.6 百万 ポンド	資金 管理業	-	余資の貸付等	資金の回収 (注6)  資金の貸付 (注6)  受取利息	2,000,000  1,500,000  743	貸付金  未収入金	1,500,000  430
兄弟会社 (注3)	シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッド	イギリス、ロンドン市	155.0 百万 ポンド	投資 運用業	-	運用受託契約の再委任等	運用受託報酬の受取(注7)  サービス提供業務報酬の受取(注8)  情報提供業務報酬の受取(注9)  役務提供業務の対価の受取(注9)  運用再委託報酬の支払(注7)  一般管理費(諸経費)の支払(注9)  一般管理費(出向者人件費の負担金)(注10)	73,746  357,857  184,722  162,262  1,535,545  291,509  11,265	未収運用受託報酬  未収入金	7,509  86,531  208,546
兄弟会社 (注4)	シュローダー・インベストメント・マネージメント・	シンガポール	50.7 百万 シンガ	投資 運用業	-	運用受託契約の再委任、業務委	運用受託報酬の受取(注7)	38,905	未収運用受託報酬	4,886

	(シンガポール)・リミテッド		ポールド ル			託等	サービス提供 業務報酬の受 取（注8）	247,097	未収入金	33,118
							役務提供業務 の対価の受取 （注9）	76,606		
							運用再委託報 酬の支払 （注7）	15,881	未払金(そ の他未払 金)	106,706
							一般管理費(諸 経費)の支払 （注9）	803,598		
兄弟会社 の子会社 （注5）	シュローダー・イ ンベストメント・ マネージメント （ルクセンブル ク）・エス・エー	ルクセンブル ク	12.8 百万 ユーロ	資産 管理業	-	運用受託契 約の再委任 等	運用受託報酬 の受取（注7）	1,787,223	未収運用 受託報酬	200,598
							サービス提供 業務報酬の受 取（注8）	1,177,053	未収入金	146,002
							役務提供業務 の対価の受取 （注9）	204,406		
							運用再委託報 酬の支払 （注7）	281,723	未払金(そ の他未払 金)	10,797

（注2）当社の最終親会社であるシュローダー・ピーエルシーが、直接の子会社であるシュローダー・アドミニストレーション・リミテッド、及び、その直接の子会社であるシュローダー・フィナンシャル・ホールディングス・リミテッドを通して、シュローダー・フィナンシャル・サービスズ・リミテッドの議決権の100%を保有しております。

（注3）当社の親会社であるシュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッドが、シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッドの議決権の100%を保有しております。

（注4）当社の親会社であるシュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッドが、シュローダー・インベストメント・マネージメント・（シンガポール）・リミテッドの議決権の100%を保有しております。

（注5）当社の兄弟会社であるシュローダー・インターナショナル・ファイナンス・ピー・ヴィーが、シュローダー・インベストメント・マネージメント（ルクセンブルグ）・エス・エーの議決権の100%を保有しております。

（注6）資金の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済期間は概ね3ヶ月であります。なお、担保は受け入れておりません。

（注7）各社間の運用受託報酬の收受については、各ファンドの契約毎に契約運用資産に対する各社の運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

（注8）各社間のサービス提供業務の報酬の收受については、各ファンドの契約毎に、グループ会社間の契約に基づき、一定の比率により決定しております。

（注9）情報提供業務・役務提供業務・調査費・その他営業費用及び一般管理費（諸経費）の報酬の收受については、当業務に関する支出を勘案して合理的な金額により行っております。

（注10）シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッドより出向している役員及び従業員への給与、賞与の支払いは、シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッドより行われております。但し、これらの費用はシュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッドより当社に請求されるものであり、未払いの金額については、シュローダー・イン

ベストメント・マネジメント・リミテッドに対する債務として処理しております。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### (1) 親会社情報

シュローダー・ピーエルシー（最終親会社、ロンドン証券取引所に上場）

シュローダー・インターナショナル・ホールディングス・リミテッド（親会社、非上場）

### (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項はありません。

### (1株当たり情報)

第26期 自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日		第27期 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	
1株当たり純資産額	393,176円33銭	1株当たり純資産額	316,867円73銭
1株当たり当期純利益	170,319円44銭	1株当たり当期純利益	173,716円53銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
1株当たり当期純利益の算定上の基礎		1株当たり当期純利益の算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益	1,669,130千円	損益計算書上の当期純利益	1,702,421千円
普通株式に係る当期純利益	1,669,130千円	普通株式に係る当期純利益	1,702,421千円
普通株式に帰属しない金額の主要な内訳	該当事項はありません。	普通株式に帰属しない金額の主要な内訳	該当事項はありません。
普通株式の期中平均株式数	9,800 株	普通株式の期中平均株式数	9,800 株

### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (2) 運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（4）、（5）において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行なうこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。

- (5) 上記(3)、(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であつて、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

## 5【その他】

### (1) 定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

### (2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される訴訟事件などは発生していません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

#### (1) 受託会社

名 称	資本金の額 (2018年3月末現在)	事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

#### <再信託受託会社の概要>

名称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金の額 : 10,000百万円(2018年3月末現在)

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託者から再信託受託者(日本マスタートラスト信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

#### (2) 販売会社

名 称	資本金の額 (2018年3月末現在)	事業の内容
S M B C 日興証券株式会社	10,000百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社 S B I 証券	48,323百万円	
野村証券株式会社*	10,000百万円	
八十二証券株式会社*	3,000百万円	
フィデリティ証券株式会社	8,557百万円	
マネックス証券株式会社	12,200百万円	
水戸証券株式会社	12,272百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	
株式会社関西アーバン銀行	47,039百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

\* 募集の取扱いを行いません。

#### (3) 投資顧問会社

名 称	資本金の額 (2017年12月末現在)	事業の内容
-----	------------------------	-------

シュローダー・インベストメント・マネジメント・ノースアメリカ・インク	41.5百万米ドル	資産運用に関する業務を営んでいます。
------------------------------------	-----------	--------------------

## 2【関係業務の概要】

- (1) 受託会社  
ファンドの信託財産に属する有価証券の管理・計算事務などを行ないます。
- (2) 販売会社  
日本におけるファンドの募集、解約、収益分配金および償還金の取扱いなどを行ないます。
- (3) 投資顧問会社  
委託会社から、マザーファンドの運用指図権限の委託を受け当該ファンドの運用（投資一任）を行ないます。

## 3【資本関係】

- (1) 受託会社  
該当事項はありません。
- (2) 販売会社  
該当事項はありません。
- (3) 投資顧問会社  
直接的な資本関係はありません。（2017年12月末現在）

## 第3【その他】

- (1) 目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用します。
- (2) 目論見書の表紙、表紙裏または裏表紙等に、以下を記載することがあります。
  - 委託会社の金融商品取引業者登録番号および設立年月日
  - ファンドの基本的性格など
  - 委託会社およびファンドのロゴ・マークや愛称、図案など
  - 委託会社のホームページや携帯電話サイトのご案内など
  - 目論見書の使用開始日
  - グループ会社全体の運用総額
  - シュローダー・グループのご紹介
- (3) 目論見書の表紙または表紙裏に、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。
  - 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。
  - 投資信託は、元金および利回りが保証されているものではない旨の記載。
  - 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入されたお客様が負う旨の記載。
  - 「金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である。」旨の記載。
  - 「ご購入に際しては、目論見書の内容を十分にお読みください。」という趣旨の記載。
  - 請求目論見書の入手方法（ホームページで閲覧、ダウンロードできるなど）についての記載。
  - 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行なった場合にはその旨の記録をしておくべきである旨の記載。
  - 「約款が請求目論見書に掲載されている。」旨の記載。
  - 商品内容に関して重大な変更を行なう場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨の記載。
  - 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨の記載。
  - 有価証券届出書の効力発生およびその確認方法に関する記載。
  - 委託会社の情報として記載することが望ましい事項と判断する事項がある場合は、当該事項の記載。

- (4) 有価証券届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、当該内容を説明した図表などを付加して目論見書の当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (5) 目論見書に約款を掲載し、有価証券届出書本文「第二部 ファンド情報」中「第1 ファンドの状況」「2 投資方針」の詳細な内容につきましては、当該約款を参照する旨を記載することで、目論見書の内容の記載とすることがあります。
- (6) 投信評価機関、投信評価会社などによる評価を取得・使用することがあります。
- (7) 目論見書は電子媒体などとして使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。
- (8) 交付目論見書の投資リスクに、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。
- ファンドの取引に関して、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用がない旨の記載。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われるので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がる旨。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合がある旨。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合がある旨の記載。
- (9) 交付目論見書の手続・手数料等に、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。
- 当初元本額についての記載。
- 基準価額が日本経済新聞に掲載される旨および掲載略称。
- 所得税には、復興特別所得税が含まれる旨。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年3月12日

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社  
取締役会 御中

### PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 佐々木 貴 司  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 太 田 英 男  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第27期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

取締役会 御中

## P w C あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 佐々木 貴司  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 太田 英男  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているシュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）の平成29年11月16日から平成30年5月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シュローダー・エマージング・ソブリン債券（現地通貨建て）ファンド（毎月決算型）の平成30年5月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。



